

Ⅲ 県外観光客動態調査

1 概要

● はじめに

本調査は、観光施策の基礎資料とすることを目的に、高知県内の観光地 10 地点で四季ごとにアンケート調査を実施し、結果をとりまとめたものである。

調査精度の均一化を図るため、調査員による対面聞き取り方式のアンケート調査を実施。時間帯も 10 時から 17 時頃まで偏りがないように調整しながら調査している。あわせて 1 グループに 1 名(1 回答)を徹底した。

なお、暦年調査のため、四季別データは冬春夏秋の順で表示した。

● 調査場所 (10 地点)

室戸岬、モネの庭、アンパンマンミュージアム、龍河洞、高知城、桂浜、土佐和紙工芸村、黒潮本陣、四万十川、足摺岬

● 調査時期

- ・ 冬季：令和 6 年 1 月 2 日～令和 6 年 3 月 9 日
- ・ 春季：令和 6 年 4 月 27 日～令和 6 年 5 月 26 日
- ・ 夏季：令和 6 年 7 月 14 日～令和 6 年 8 月 24 日
- ・ 秋季：令和 6 年 10 月 6 日～令和 6 年 11 月 23 日

※ 1 日で十分なサンプル数を得ることができなかった調査地では複数日で調査を行っている。

- ・ 冬季：モネの庭（各 2 日間）
- ・ 春季：四万十川（各 2 日間）
- ・ 夏季：モネの庭、土佐和紙工芸村（各 2 日間）
- ・ 秋季：龍河洞（各 2 日間）

● 調査結果の概要

「1泊2日」は減少傾向が続き過去最小。県内旅行日数は0.1日増加。

日帰り客と宿泊客の割合（P17：表 3-1）は、「1泊2日」が過去4年から減少傾向が続
き、前年比2.3ポイント減少の37.6%となった。その一方、「2泊3日」が2.0ポイント
増加の19.6%、「5泊6日以上」が0.7ポイント増加の3.0%、「4泊5日」が0.6ポイン
ト増加の2.4%と過去最大となっている。

県内旅行の平均日数（P24：図 5-1）は前年比0.1日増加の2.2日となったが、主要な
発地ブロックではいずれも大きな変動がなかった。

過去4年で「その他のブロック」が最大、「中国」は最小。

発地ブロック別入込割合（P20：表 4-1）は、「その他のブロック」が9.6%と過去4年
の調査を通じて最大となり、「中国」が12.5%で最小となった。アフターコロナといわれ
る令和4年からいずれも大きな変動がみられず、四国は減少傾向が止まり、コロナ明けの
関東の増加傾向が落ち着いている。

前年から「1人旅」が増加、「友人知人」「4～5人」は減少。

旅行形態割合（P29：表 8-1）は、前年比で「1人旅」が1.6ポイント増加の15.6%、
「友人知人」が1.8ポイント減少の12.0%となり、その他の旅行形態は大きな変動がな
かった。同行者数割合（P30：表 8-2）は、前年比で「1人」が1.6ポイント増加の
15.6%、「4～5人」が1.0ポイント減少の16.0%となり、その他の同行者数は大きな変
動がなかった。

県内平均消費額は、過去最大となる29,717円。

県内平均消費額（P35：図 10-1）は、前年比で2,078円増加の29,717円と過去4年の
調査を通じて最大となり、すべての費目において増加。令和4年からすべての費目で増加
傾向が続いている。

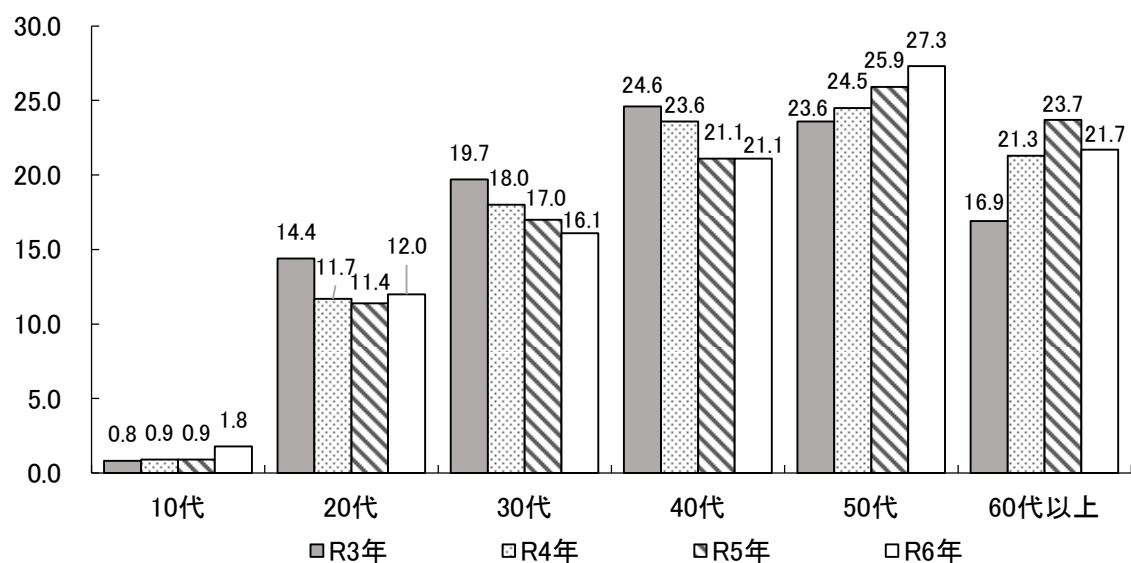
四季別（P38：表 10-5）では、冬季から夏季まで1,000円以上の増加が続き、秋季は
3,427円と大きく増加した。

2 年代別入込割合

(表 2-1) 年代別旅行者割合(上段:件 下段:%) [R3年~R6年]

	R3 年 (n=2,460)	R4 年 (n=2,993)	R5 年 (n=3,103)	R6 年 (n=3,049)	対前年比 R5年、R6年
10 代	20	28	29	55	200.0%
	0.8	0.9	0.9	1.8	
20 代	354	350	352	365	105.3%
	14.4	11.7	11.4	12.0	
30 代	484	540	528	490	94.7%
	19.7	18.0	17.0	16.1	
40 代	604	706	653	644	100.0%
	24.6	23.6	21.1	21.1	
50 代	581	733	805	833	105.4%
	23.6	24.5	25.9	27.3	
60 代以上	417	636	736	662	91.6%
	16.9	21.3	23.7	21.7	

(図 2-2) 年代別旅行者割合(%) [R3年~R6年]



(表 2-3) 年代別性別旅行者割合(上段:件 下段:%) [R4年～R6年]

	R4 年 (n=2,993)		R5 年 (n=3,103)		R6 年 (n=3,049)	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
10 代	9	19	12	17	36	19
	32.1	67.9	41.4	58.6	65.5	34.5
20 代	218	132	213	139	239	126
	62.3	37.7	60.5	39.5	65.5	34.5
30 代	324	216	321	207	307	183
	60.0	40.0	60.8	39.2	62.7	37.3
40 代	454	252	406	247	419	225
	64.3	35.7	62.2	37.8	65.1	34.9
50 代	499	234	535	270	545	288
	68.1	31.9	66.5	33.5	65.4	34.6
60 代以上	427	209	503	233	472	190
	67.1	32.9	68.3	31.7	71.3	28.7
計	1,931	1,062	1,990	1,113	2,018	1,031
	64.5	35.5	64.1	35.9	66.2	33.8

年代別旅行者割合をみると、50代が27.3%と最も多く、次いで60代以上が21.7%、40代が21.1%と続いている。前年と比べ10代、20代、50代が増加し、40代が横ばい、30代と60代以上が減少している。

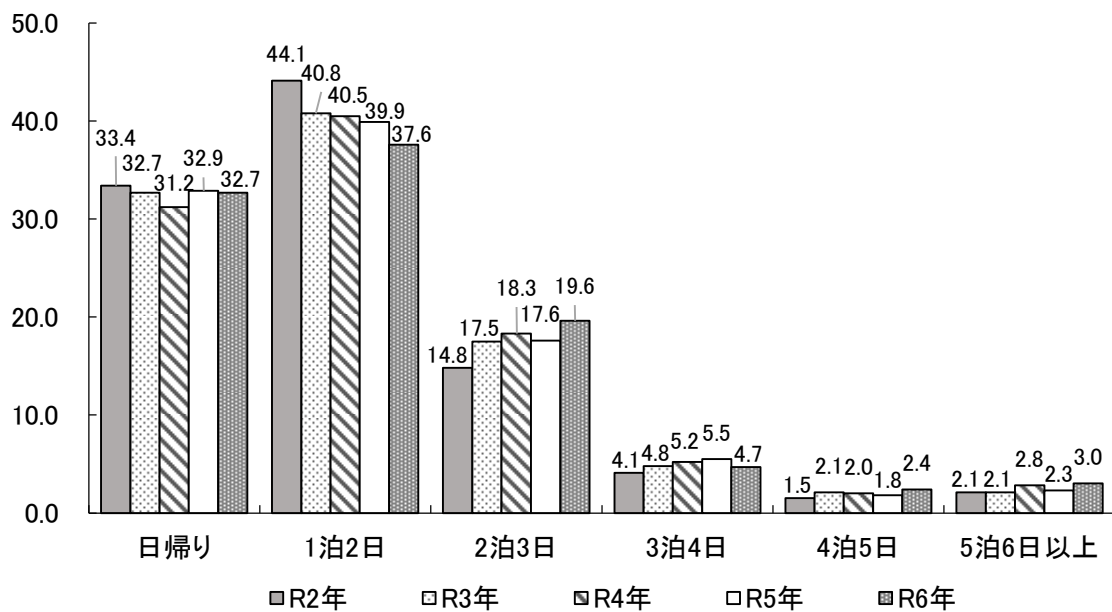
男女比は、男性が66.2%、女性が33.8%となっており、すべての年代で男性の割合が、女性の割合を上回っている。

3 日帰り客と宿泊客割合

(表 3-1) 年次別日帰り客・宿泊客割合(上段:件 下段:%) [R2年～R6年]

	日帰り	1泊2日	2泊3日	3泊4日	4泊5日	5泊6日以上
R2年	888	1,172	393	108	39	56
(n=2,656)	33.4	44.1	14.8	4.1	1.5	2.1
R3年	805	1,003	432	118	51	51
(n=2,460)	32.7	40.8	17.5	4.8	2.1	2.1
R4年	934	1,211	549	155	61	83
(n=2,993)	31.2	40.5	18.3	5.2	2.0	2.8
R5年	1,021	1,238	547	170	56	71
(n=3,103)	32.9	39.9	17.6	5.5	1.8	2.3
R6年	998	1,145	599	142	74	91
(n=3,049)	32.7	37.6	19.6	4.7	2.4	3.0

(図 3-2) 年次別日帰り客・宿泊客割合(%) [R2年～R6年]



日帰り客と宿泊客の割合をみると、「1泊2日」が37.6%と最も多く、次いで「日帰り」が32.7%、「2泊3日」が19.6%と続いている。

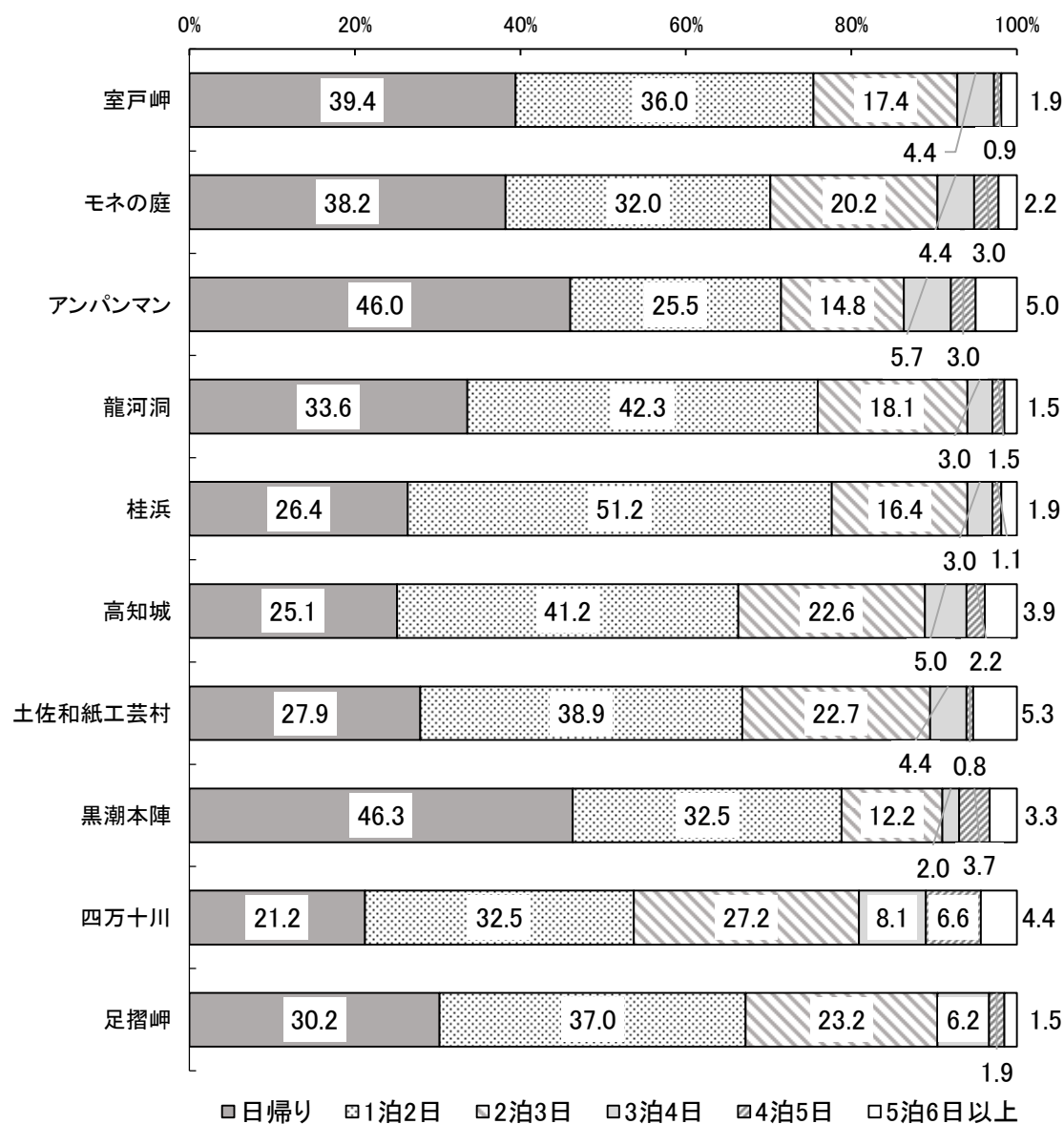
前年と比べ「2泊3日」が2.0ポイント、「5泊6日以上」が0.7ポイント増加しており、「1泊2日」が2.3ポイント、「3泊4日」が0.8ポイントなどと減少している。令和2年度の調査から通してみると、「2泊3日」と「4泊5日」以上の割合は過去最大、「1泊2日」は過去最小となっている。

(表 3-3) 四季別日帰り客・宿泊客割合(上段:件 下段:%) [R5年、R6年]

		日帰り	1泊2日	2泊3日	3泊4日	4泊5日	5泊6日以上
冬	R5 年	213	271	105	37	22	25
		31.6	40.3	15.6	5.5	3.3	3.7
	R6 年	202	234	108	24	23	38
		32.1	37.2	17.2	3.8	3.7	6.0
春	R5 年	279	322	139	51	15	15
		34.0	39.2	17.0	6.2	1.8	1.8
	R6 年	286	284	178	47	13	14
		34.8	34.5	21.7	5.7	1.6	1.7
夏	R5 年	274	308	153	49	15	20
		33.5	37.6	18.7	6.0	1.8	2.4
	R6 年	272	286	157	45	25	28
		33.5	35.2	19.3	5.5	3.1	3.4
秋	R5 年	255	337	150	33	4	11
		32.3	42.6	19.0	4.2	0.5	1.4
	R6 年	238	341	156	26	13	11
		30.3	43.4	19.9	3.3	1.7	1.4

四季別データを前年と比べると、冬季は「5泊6日以上」が2.3ポイント、「2泊3日」が1.6ポイントの増加、「1泊2日」が3.1ポイント、「3泊4日」が1.7ポイントの減少などとなっている。春季は「2泊3日」が4.7ポイント、「日帰り」が0.8ポイントの増加、「1泊2日」が4.7ポイント、「3泊4日」が0.5ポイントの減少などとなっている。夏季は「4泊5日」が1.3ポイント、「5泊6日以上」が1.0ポイントの増加、「1泊2日」が2.4ポイント、「3泊4日」が0.5ポイントの減少などとなっている。秋季は「4泊5日」が1.2ポイント、「2泊3日」が0.9ポイントの増加、「日帰り」が2.0ポイント、「3泊4日」が0.9ポイントの減少などとなっている。

(図 3-4) 調査地別日帰り客・宿泊客割合(%) [R6年]



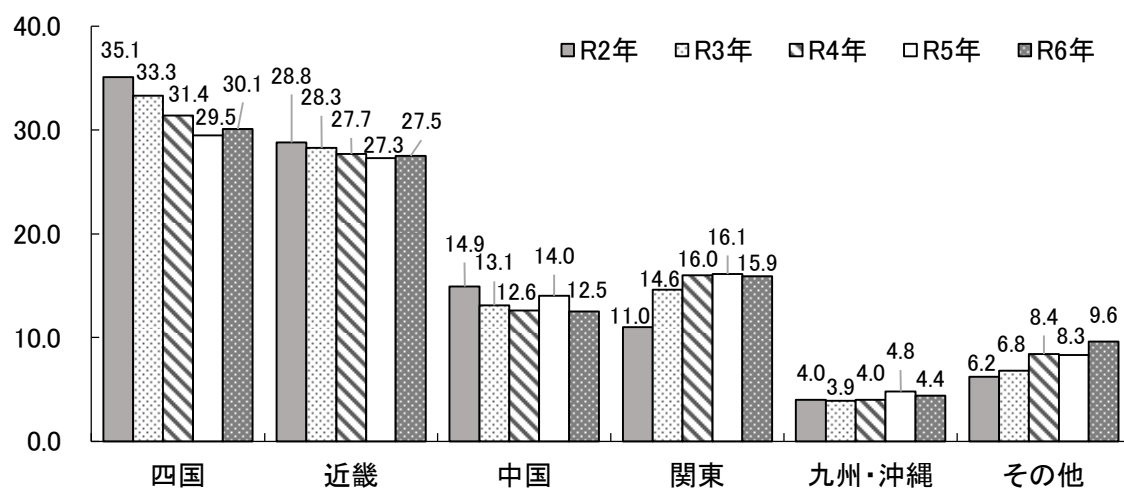
日帰り客と宿泊客の割合を調査地別にみると、「日帰り」の割合は黒潮本陣が46.3%と最も多く、次いでアンパンマンミュージアムが46.0%、室戸岬が39.4%と続いている。また、「1泊2日」は桂浜が51.2%と最も多く、次いで龍河洞が42.3%、高知城が41.2%と続いている。そのほか、「2泊3日」は四万十川が27.2%、「3泊4日」は四万十川8.1%、「4泊5日」は四万十川が6.6%、「5泊6日以上」は土佐和紙工芸村が5.3%と、それぞれ最も多くなっている。

4 発地ブロック別入込割合

(表 4-1) 発地ブロック別入込割合(上段:件 下段:%) [R2年～R6年]

	四国	近畿	中国	関東	九州・ 沖縄	その他
R2 年 (n=2,656)	933 35.1	764 28.8	395 14.9	292 11.0	106 4.0	166 6.2
R3 年 (n=2,460)	818 33.3	697 28.3	323 13.1	359 14.6	97 3.9	166 6.8
R4 年 (n=2,993)	939 31.4	829 27.7	377 12.6	479 16.0	119 4.0	250 8.4
R5 年 (n=3,103)	914 29.5	847 27.3	436 14.0	500 16.1	149 4.8	257 8.3
R6 年 (n=3,049)	917 30.1	838 27.5	382 12.5	484 15.9	136 4.4	292 9.6

(図 4-2) 発地ブロック別入込割合(%) [R2年～R6年]



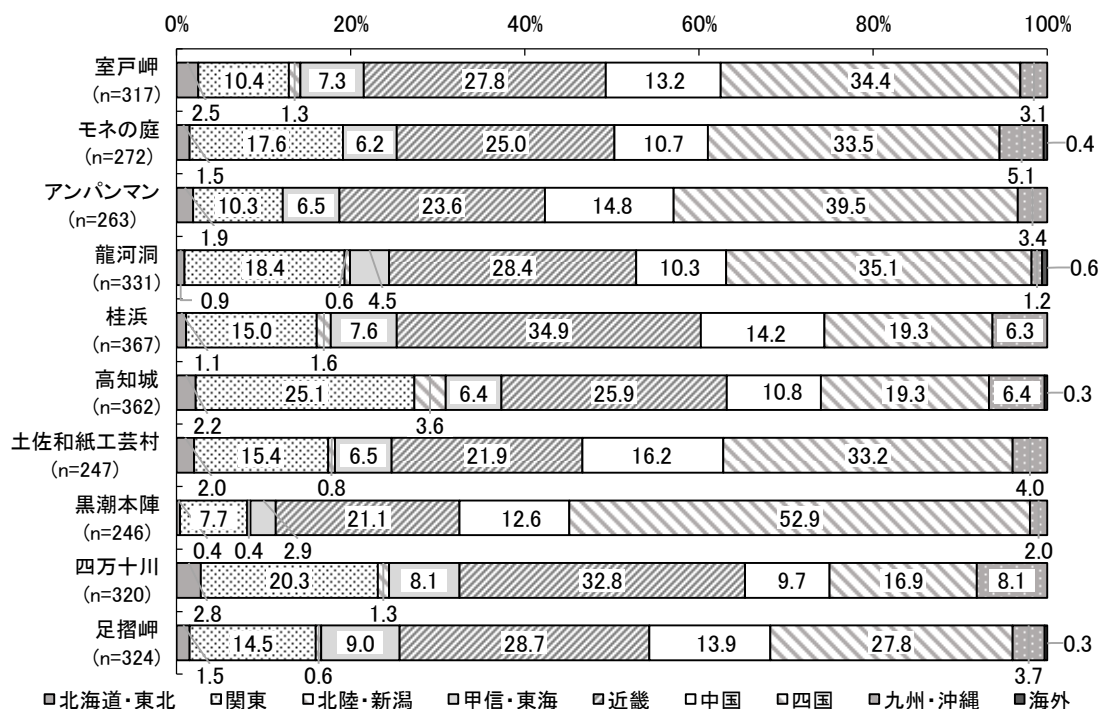
発地ブロック別入込割合をみると、四国が30.1%と最も多く、次いで近畿が27.5%、関東が15.9%と続いている。

前年と比べると、その他のブロックが1.3ポイント、四国が0.6ポイント、近畿が0.2ポイント増加しており、中国が1.5ポイント、九州・沖縄が0.4ポイント、関東が0.2ポイント減少している。令和2年度の調査から通してみると、その他のブロックの割合は過去最大、中国の割合は過去最小となっている。

(表 4-3) 発地ブロック別入込割合(上段:件 下段:%) [R2年~R6年 全地区データ]

	四国	近畿	中国	関東	九州・ 沖縄	甲信・ 東海	北陸・ 新潟	東北	北海道	海外
R2 年 (n=2,656)	933 35.1	764 28.8	395 14.9	292 11.0	106 4.0	121 4.5	23 0.9	11 0.4	10 0.4	1 0.0
R3 年 (n=2,460)	818 33.3	697 28.3	323 13.1	359 14.6	97 3.9	123 5.0	16 0.7	13 0.5	14 0.6	0 0.0
R4 年 (n=2,993)	939 31.4	829 27.7	377 12.6	479 16.0	119 4.0	193 6.5	21 0.7	17 0.6	17 0.6	2 0.1
R5 年 (n=3,103)	914 29.5	847 27.3	436 14.0	500 16.1	149 4.8	182 5.9	29 0.9	21 0.7	23 0.7	2 0.1
R6 年 (n=3,049)	917 30.1	838 27.5	382 12.5	484 15.9	136 4.4	201 6.6	34 1.1	25 0.8	27 0.9	5 0.2

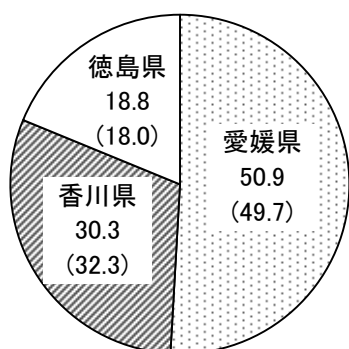
(図 4-4) 調査地別発地ブロック別入込割合(%) [R6年]



調査地別に発地ブロック別入込割合をみると (P21: 図 4-4、P23: 表 4-8)、桂浜と足摺岬は近畿・四国、高知城と四万十川は近畿・関東、その他の6地点は四国・近畿の順で多くなっている。

四国・中国・近畿の近隣3ブロック合計で占める割合は、黒潮本陣が86.6%と最も多く、次いでアンパンミュージアムが77.9%、室戸岬が75.4%と続いている。また、関東・近畿ブロックの合計は、四万十川が53.1%と最も多く、次いで高知城が51.0%、桂浜が49.9%と続いている。

(図 4-5) ブロック別・四国(%)

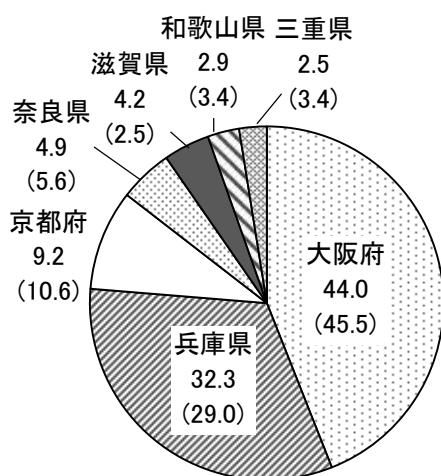


()内の数値は R5年

前年と比べ、愛媛が 1.2 ポイント、徳島が 0.8 ポイント増加しており、香川が 2.0 ポイント減少となっている。

愛媛は全体の入込割合で一位、また黒潮本陣など 6 つの調査地において入込割合の一位となっている。香川は全体の三位、黒潮本陣など 3 地点で二位となっている。徳島は全体の六位、室戸岬で一位となっている (P23 : 表 4-8)。

(図 4-6) ブロック別・近畿(%)

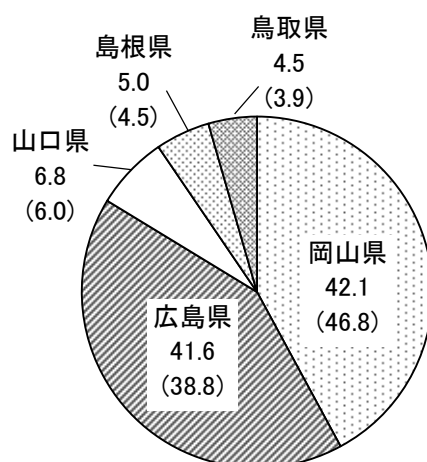


()内の数値は R5年

前年と比べ、兵庫が 3.3 ポイント、滋賀が 1.7 ポイント増加しており、大阪が 1.5 ポイント、京都が 1.4 ポイント、三重が 0.9 ポイント、奈良が 0.7 ポイント、和歌山が 0.5 ポイント減少となっている。大阪と兵庫で 76.3%と、近畿ブロックの四分之三を占めている。

大阪は全体の入込割合で二位、桂浜など 3 地点で一位となっており、兵庫は全体の四位、桂浜で二位となっている (P23 : 表 4-8)。

(図 4-7) ブロック別・中国(%)



()内の数値は R5年

前年と比べ、広島が 2.8 ポイント、山口が 0.8 ポイント、鳥取が 0.6 ポイント、島根が 0.5 ポイント増加しており、岡山が 4.7 ポイント減少となっている。岡山と広島の 2 県で 83.7%と、中国ブロックの大半を占めている。

岡山は全体の入込割合で七位、広島は全体の八位となっている (P23 : 表 4-8)。

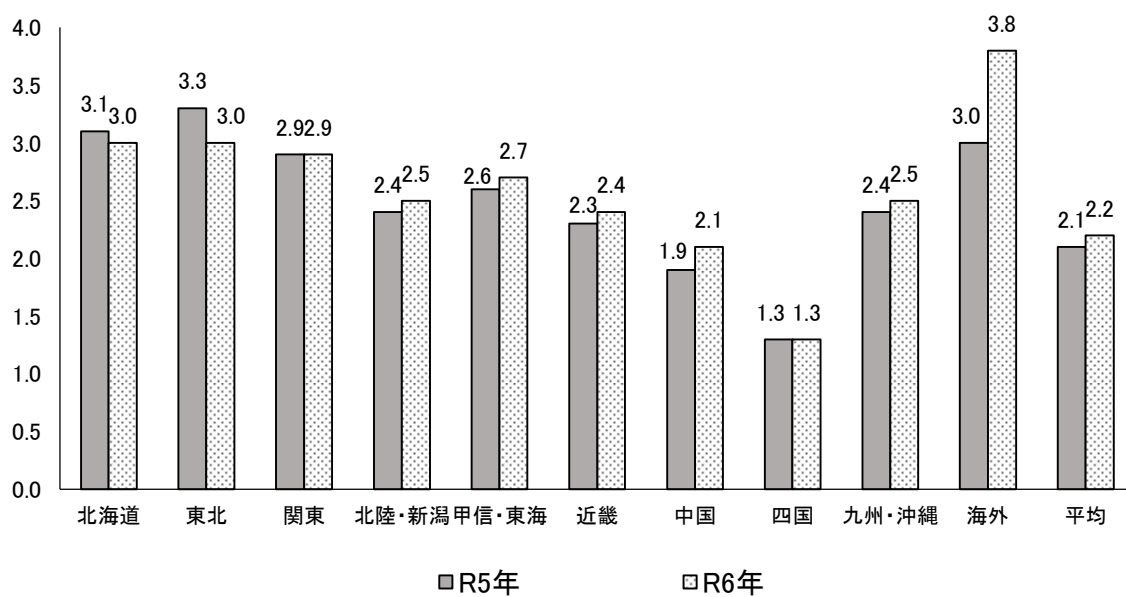
(表 4-8) 調査地別発地都道府県入込割合(件) [R6年]

		室戸岬	モネの庭	アンパンマン	龍河洞	桂浜	高知城	土佐和紙工芸村	黒潮本陣	四万十川	足摺岬	全体	順位
県外合計		317	272	263	331	367	362	247	246	320	324	3,049	-
北海道・東北	北海道	3	2	1	1	1	3	4	1	7	4	27	
	青森県	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2	
	岩手県	0	0	2	0	0	1	0	0	0	1	4	
	宮城県	4	1	0	1	0	1	1	0	1	0	9	
	秋田県	1	0	1	0	2	2	0	0	0	0	6	
	山形県	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	福島県	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	3	
北海道・東北 計		8	4	5	3	4	8	5	1	9	5	52	-
関東	茨城県	1	4	0	1	2	8	0	1	2	1	20	
	栃木県	0	1	0	3	1	3	1	0	0	5	14	
	群馬県	2	1	0	0	1	3	0	1	1	1	10	
	埼玉県	6	7	3	9	3	9	5	2	8	3	55	
	千葉県	3	6	3	11	6	9	4	3	9	8	62	
	東京都	16	17	16	22	26	40	21	9	28	18	213	5
	神奈川県	5	12	5	15	16	19	7	3	17	11	110	10
関東 計		33	48	27	61	55	91	38	19	65	47	484	-
北陸・新潟	新潟県	1	0	0	1	2	2	1	0	2	0	9	
	富山県	0	0	0	0	1	2	1	0	0	1	5	
	石川県	1	0	0	0	2	5	0	0	2	0	10	
	福井県	2	0	0	1	1	4	0	1	0	1	10	
北陸・新潟 計		4	0	0	2	6	13	2	1	4	2	34	-
甲信・東海	山梨県	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	3	
	長野県	2	0	1	4	5	1	0	0	1	3	17	
	岐阜県	0	0	4	0	5	3	0	2	2	5	21	
	静岡県	7	2	3	3	5	5	2	1	6	3	37	
	愛知県	14	14	9	8	12	14	14	4	17	17	123	9
甲信・東海 計		23	17	17	15	28	23	16	7	26	29	201	-
近畿	三重県	1	1	4	4	7	1	0	1	1	1	21	
	滋賀県	2	3	1	9	4	4	1	0	6	5	35	
	京都府	12	8	2	5	14	15	5	3	6	7	77	11
	大阪府	35	28	28	34	56	42	27	26	53	40	369	2
	兵庫県	34	23	23	32	37	24	16	18	31	33	271	4
	奈良県	3	2	3	5	6	7	2	3	4	6	41	
	和歌山県	1	3	1	5	4	1	3	1	4	1	24	
近畿 計		88	68	62	94	128	94	54	52	105	93	838	-
中国	鳥取県	0	0	2	2	3	7	0	0	1	2	17	
	島根県	3	1	1	3	0	1	5	2	1	2	19	
	岡山県	19	18	18	13	21	14	12	16	14	16	161	7
	広島県	16	7	18	16	22	16	19	9	12	24	159	8
	山口県	4	3	0	0	6	1	4	4	3	1	26	
中国 計		42	29	39	34	52	39	40	31	31	45	382	-
四国	徳島県	42	31	14	27	11	15	3	14	4	11	172	6
	香川県	34	22	31	39	25	23	14	49	16	25	278	3
	愛媛県	33	38	59	50	35	32	65	67	34	54	467	1
四国 計		109	91	104	116	71	70	82	130	54	90	917	-
九州・沖縄	福岡県	5	9	1	1	15	9	4	1	9	5	59	
	佐賀県	3	2	1	1	1	1	0	1	3	2	15	
	長崎県	1	0	1	0	1	1	2	0	3	1	10	
	熊本県	0	1	4	1	1	6	1	1	4	0	19	
	大分県	0	0	1	1	1	6	1	2	2	1	15	
	宮崎県	0	0	1	0	1	0	0	0	2	2	6	
	鹿児島県	1	0	0	0	2	0	2	0	2	0	7	
	沖縄県	0	2	0	0	1	0	0	0	1	1	5	
九州・沖縄 計		10	14	9	4	23	23	10	5	26	12	136	-
海外		0	1	0	2	0	1	0	0	0	1	5	-
高知県		83	128	137	69	33	38	153	154	80	76	951	-

5 旅行日数

5.1 発地ブロック別県内旅行日数

(図 5-1) 発地ブロック別県内旅行日数(日) [R5年、R6年]



県内旅行日数の平均は、前年と比べ、0.1日増加の2.2日となっている。

発地ブロック別にみると、北海道と東北が3.0日で最も多く、次いで関東が2.9日、甲信・東海が2.7日と続いている。前年と比べ、中国や甲信・東海などの5地点が増加しており、関東と四国は横ばい、東北と北海道は減少となっている。

5.2 年代別旅行日数

(表 5-2) 年代別県内旅行日数〔加重平均〕(日)〔R2年～R6年〕

	R2 年	R3 年	R4 年	R5 年	R6 年
10 代	2.1	2.1	2.6	2.3	2.2
20 代	2.0	2.2	2.2	2.2	2.3
30 代	2.1	2.2	2.3	2.1	2.2
40 代	2.1	2.1	2.1	2.1	2.2
50 代	2.0	2.0	2.1	2.0	2.1
60 代以上	2.0	2.0	2.2	2.1	2.1
全 体	2.0	2.1	2.1	2.1	2.2

年代別の県内旅行日数は、20 代が 2.3 日、10 代、30 代、40 代が 2.2 日、50 代以上が 2.1 日となっている。

前年と比べ、20 代から 50 代は 0.1 日増加、60 代以上は横ばい、10 代は 0.1 日減少となっている。令和 2 年度の調査から通してみると、20 代と 40 代の県内旅行日数は過去最大となっている。

6 旅行形態別旅行目的割合

(表 6-1) 旅行形態別旅行目的割合(%) [R4年～R6年]

		自然見物 ・町歩き	休養 ・慰安	イベント	アウトド ア	スポーツ	食べ物	神仏 霊場巡り	買い物	名所旧跡 観光施設	なんと なく	ワーケー ション	帰省 ・仕事	その他
1 人	R4 年	23.3	0.5	1.3	5.8	0.7	7.8	5.3	1.3	19.5	20.8	0.2	11.5	2.0
	R5 年	22.1	2.3	2.3	3.9	0.7	11.7	6.2	0.9	14.7	17.0	0.0	17.0	1.2
	R6 年	24.0	1.0	2.7	3.8	0.0	9.0	9.2	1.3	12.0	18.7	0.0	16.2	2.1
家族	R4 年	24.4	3.0	0.7	3.6	0.6	19.4	3.5	2.3	25.9	4.3	0.0	11.5	0.8
	R5 年	22.0	3.7	2.2	2.6	0.2	19.7	3.7	2.2	27.8	3.7	0.0	11.1	1.1
	R6 年	23.0	3.0	1.5	3.0	0.3	21.4	5.3	3.1	22.5	3.4	0.0	12.2	1.3
友人 知人	R4 年	24.9	2.1	1.1	6.0	1.1	27.5	1.4	0.9	17.2	11.9	0.0	5.0	0.9
	R5 年	26.5	3.3	1.6	2.8	0.5	32.3	1.9	0.2	15.3	9.3	0.0	4.9	1.4
	R6 年	24.4	2.7	2.5	6.9	0.3	27.4	2.7	1.1	16.4	10.4	0.0	4.7	0.5
団体	R4 年	10.0	0.0	0.0	10.0	0.0	10.0	0.0	0.0	20.0	0.0	10.0	30.0	10.0
	R5 年	5.6	16.6	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0	0.0	38.9	0.0	0.0	27.7	5.6
	R6 年	9.5	9.5	0.0	0.0	0.0	28.6	0.0	0.0	38.1	0.0	0.0	9.5	4.8
その他	R4 年	15.4	0.0	0.0	7.7	0.0	46.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	23.1	7.7
	R5 年	38.9	0.0	0.0	0.0	5.6	22.2	0.0	0.0	5.6	11.1	0.0	16.6	0.0
	R6 年	20.0	0.0	0.0	0.0	5.0	20.0	5.0	0.0	20.0	5.0	0.0	25.0	0.0
全体	R4 年	24.3	2.5	0.8	4.3	0.7	19.1	3.4	2.0	23.6	7.5	0.1	10.7	1.0
	R5 年	22.6	3.5	2.1	2.8	0.3	20.3	3.8	1.7	24.2	6.4	0.0	11.2	1.1
	R6 年	23.2	2.7	1.8	3.5	0.3	20.2	5.6	2.5	20.2	6.6	0.0	12.0	1.4

旅行目的の全体割合をみると、「自然見物・町歩き」が前年から 0.6 ポイント増加の 23.2% で最も多く、次いで「食べ物」(0.1 ポイント減少)と「名所旧跡・観光施設」(4.0 ポイント減少)が同率で 20.2%、「帰省・仕事」が 0.8 ポイント増加の 12.0% と続いている。

令和 4 年度の調査から通してみると、「神仏・霊場巡り」、「買い物」、「帰省・仕事」、「その他」は過去最大、「名所旧跡・観光施設」は過去最小となっている。

旅行形態別に旅行目的を前年と比べると、“一人旅”では、「神仏・霊場巡り」が 3.0 ポイント増加、「食べ物」と「名所旧跡・観光施設」が 2.7 ポイント減少となっている。“家族旅行”では、「食べ物」が 1.7 ポイント増加、「名所旧跡・観光施設」が 5.3 ポイント減少となり、“友人・知人との旅行”では、「アウトドア」が 4.1 ポイント増加、「食べ物」が 4.9 ポイント減少、“団体”では、「食べ物」が 23.0 ポイント増加、「帰省・仕事」が 18.2 ポイント減少となっている。

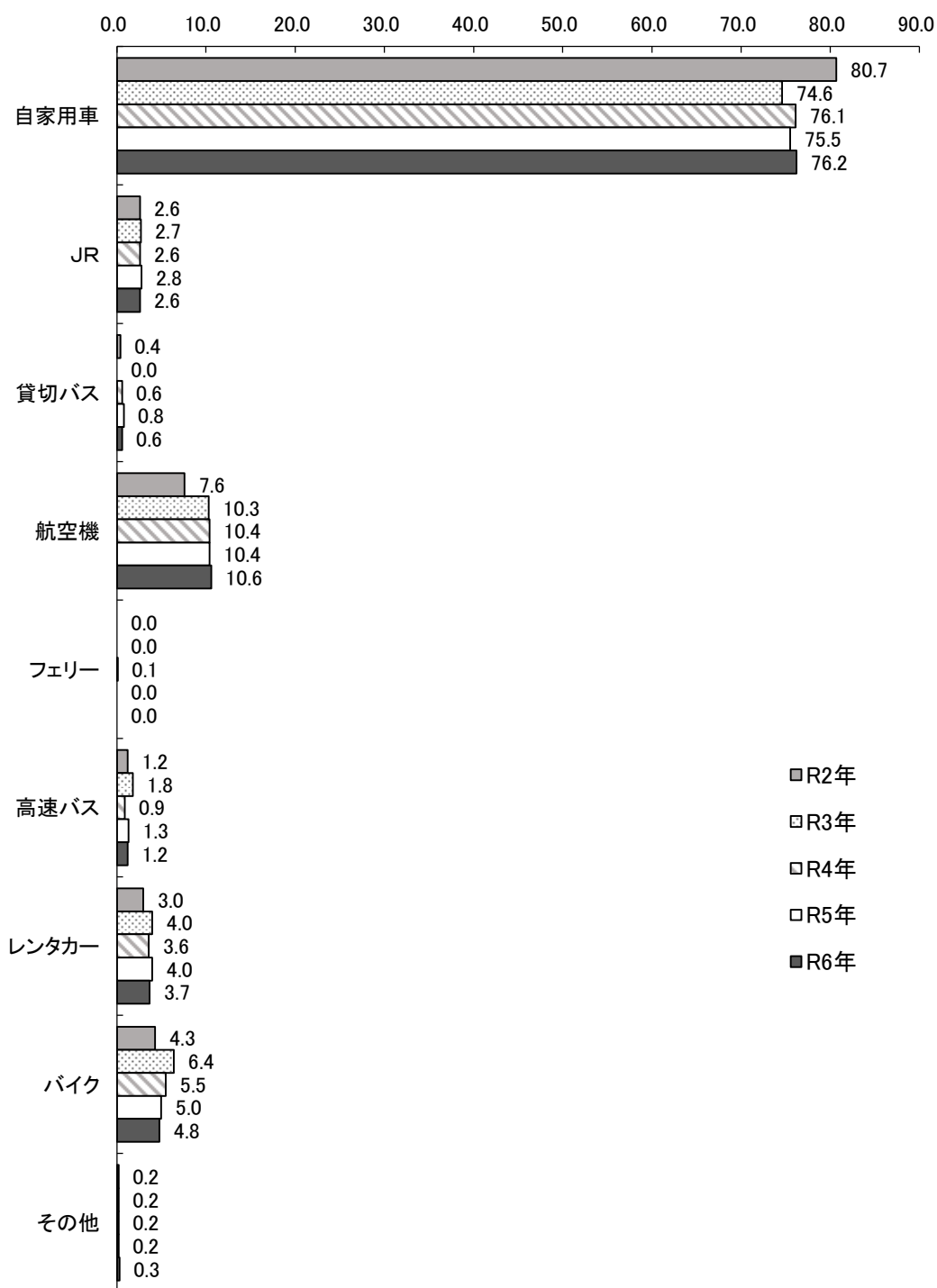
7 入込利用交通機関割合

(表 7-1) 入込利用交通機関別割合(上段:件 下段:%) [R2年～R6年]

	自家用車	JR	貸切バス	航空機	フェリー	高速バス	レンタカー	バイク	その他
R2 年	2,144	70	9	202	1	31	80	115	4
(n=2,656)	80.7	2.6	0.4	7.6	0.0	1.2	3.0	4.3	0.2
R3 年	1,834	67	1	254	0	43	98	157	6
(n=2,460)	74.6	2.7	0.0	10.3	0.0	1.8	4.0	6.4	0.2
R4 年	2,277	78	19	312	2	27	109	164	5
(n=2,993)	76.1	2.6	0.6	10.4	0.1	0.9	3.6	5.5	0.2
R5 年	2,342	87	24	322	0	41	126	155	6
(n=3,103)	75.5	2.8	0.8	10.4	0.0	1.3	4.0	5.0	0.2
R6 年	2,324	80	18	322	1	35	112	147	10
(n=3,049)	76.2	2.6	0.6	10.6	0.0	1.2	3.7	4.8	0.3

入込利用交通機関は、「自家用車」が前年から 0.7 ポイント増加の 76.2%で最も多く、次いで「航空機」が 0.2 ポイント増加の 10.6%、「バイク」が 0.2 ポイント減少の 4.8%と続いている。

(図 7-2) 入込利用交通機関別割合(%) [R2年～R6年]



8 旅行形態割合

(表 8-1) 年代別旅行形態割合(%) [R5年、R6年]

		1 人	家族	友人知人	団体	その他
10 代	R5 年 (n=29)	6.9	75.9	17.2	0.0	0.0
	R6 年 (n=55)	14.5	78.2	7.3	0.0	0.0
20 代	R5 年 (n=352)	14.5	40.0	44.9	0.3	0.3
	R6 年 (n=365)	22.7	38.9	37.0	0.0	1.4
30 代	R5 年 (n=528)	13.1	67.6	18.2	0.7	0.4
	R6 年 (n=490)	15.5	65.7	18.0	0.6	0.2
40 代	R5 年 (n=653)	12.3	77.6	8.7	0.5	0.9
	R6 年 (n=644)	12.6	80.0	5.9	0.6	0.9
50 代	R5 年 (n=805)	17.0	74.2	7.8	0.3	0.7
	R6 年 (n=833)	15.6	76.1	6.8	1.1	0.4
60 代以上	R5 年 (n=736)	13.1	78.5	6.9	1.1	0.4
	R6 年 (n=662)	14.8	77.1	6.5	0.8	0.8
全 体	R5 年 (n=3,103)	14.0	71.0	13.8	0.6	0.6
	R6 年 (n=3,049)	15.6	71.1	12.0	0.7	0.6

旅行形態割合をみると、「家族」が71.1%で最も多く、次いで「1人」が15.6%、「友人知人」が12.0%、「団体」が0.7%、「その他」が0.6%と続いている。

前年と比べ、「1人」が1.6ポイント、「家族」と「団体」が0.1ポイント増加しており、「その他」が横ばい、「友人知人」が1.8ポイント減少となっている。

年代別に旅行形態をみると、すべての年代で「家族」が最も多くなっている。

(表 8-2) 年代別同行者数割合(%) [R5年、R6年]

		1 人	2～3 人	4～5 人	6～10 人	11 人以上
10 代	R5 年 (n=29)	6.9	34.5	48.3	6.9	3.4
	R6 年 (n=55)	14.5	50.9	29.1	5.5	0.0
20 代	R5 年 (n=352)	14.5	70.2	12.5	2.0	0.8
	R6 年 (n=365)	22.7	64.9	11.3	0.8	0.3
30 代	R5 年 (n=528)	13.1	59.4	23.3	4.0	0.2
	R6 年 (n=490)	15.5	55.1	24.7	4.5	0.2
40 代	R5 年 (n=653)	12.3	57.9	24.8	4.0	1.0
	R6 年 (n=644)	12.6	60.2	23.0	3.6	0.6
50 代	R5 年 (n=805)	17.0	68.3	13.2	1.2	0.3
	R6 年 (n=833)	15.6	69.2	12.5	2.0	0.7
60 代以上	R5 年 (n=736)	13.1	71.3	10.5	4.3	0.8
	R6 年 (n=662)	14.8	72.0	8.5	3.6	1.1
全 体	R5 年 (n=3,103)	14.0	65.2	17.0	3.2	0.6
	R6 年 (n=3,049)	15.6	64.8	16.0	3.0	0.6

同行者数割合をみると、「2～3 人」が 64.8%で最も多く、次いで「4～5 人」が 16.0%、「1 人」が 15.6%、「6～10 人」が 3.0%、「11 人以上」が 0.6%と続いている。

前年と比べ、「1 人」が 1.6 ポイント増加しており、「11 人以上」が横ばい、「4～5 人」が 1.0 ポイント、「2～3 人」が 0.4 ポイント、「6～10 人」が 0.2 ポイント減少となっている。

年代別にみると、すべての年代で「2～3 人」が最も多くなっている。

(表 8-3) 年代別旅行形態・同行者数割合(件) [R6年]

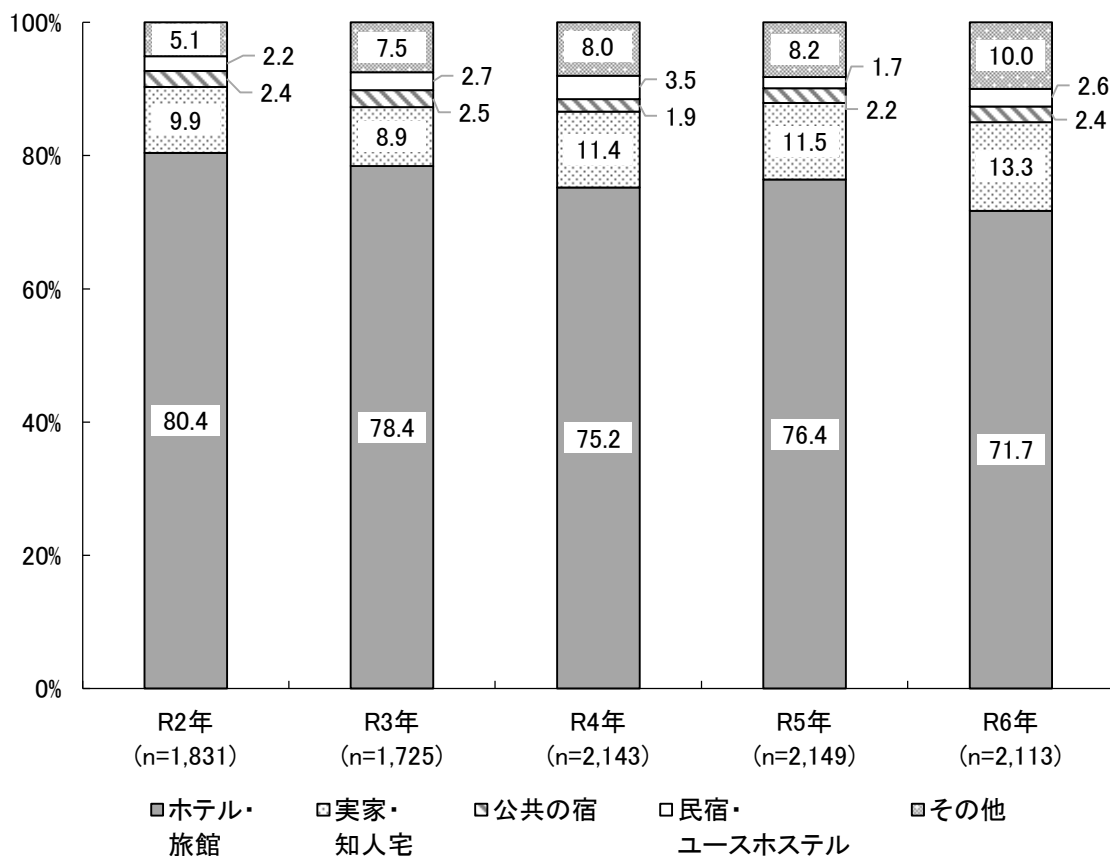
	1人	家族				友人知人				団体				その他			
		2～ 3人	4～ 5人	6～ 10人	11人 以上	2～ 3人	4～ 5人	6～ 10人	11人 以上	2～ 3人	4～ 5人	6～ 10人	11人 以上	2～ 3人	4～ 5人	6～ 10人	11人 以上
10代	8	25	15	3		3	1										
20代	83	115	26	1		119	14	2						3	1		1
30代	76	192	112	18		76	8	4		1	1		1	1			
40代	81	350	144	21		33	3	1	1	2			2	3	1	1	1
50代	130	531	94	8	1	41	9	6	1	1	1	3	4	3			
60代以上	98	450	40	20	1	27	12	4					5		4		1

年代別に旅行形態と同行者数の関係を見ると、20代を除くすべての年代は「2～3人の家族」が最も多く、20代は「2～3人の友人知人」が最も多くなっている。

9 宿泊施設割合

9.1 年間

(図 9-1) 県内利用宿泊施設割合(%) [R2年～R6年]



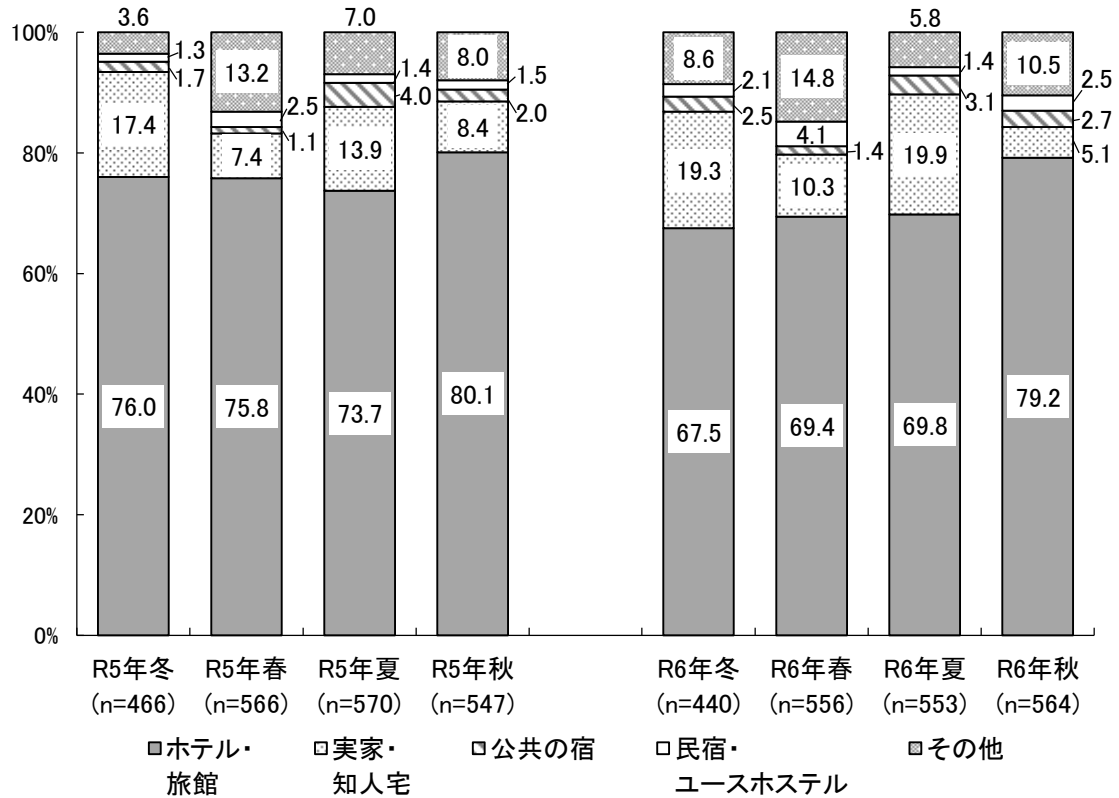
県内で利用された宿泊施設の割合は、「ホテル・旅館」が71.7%で最も多く、次いで「実家・知人宅」が13.3%、「その他」が10.0%、「民宿・ユースホステル」が2.6%、「公共の宿」が2.4%と続いている。

前年と比べ、「実家・知人宅」と「その他」が1.8ポイント、「民宿・ユースホステル」が0.9ポイント、「公共の宿」が0.2ポイント増加し、「ホテル・旅館」が4.7ポイント減少している。

令和2年度の調査から通してみると、「実家・知人宅」と「その他」の割合は過去最大、「ホテル・旅館」は過去最小となっている。

9.2 四季別

(図 9-2) 四季別県内利用宿泊施設割合(%) [R5年、R6年]



四季別県内利用宿泊施設の割合をみると、「ホテル・旅館」の占める割合が年間を通じて最も多くなっている。

前年と比べると、すべての調査時期で「ホテル・旅館」の割合が減少となっている。

前年と比べ、1.0ポイントを超えて変動している項目をみると、冬季は「その他」が5.0ポイント、「実家・知人宅」が1.9ポイント増加し、「ホテル・旅館」が8.5ポイント減少となっている。

春季は「実家・知人宅」が2.9ポイント、「民宿・ユースホステル」と「その他」が1.6ポイント増加し、「ホテル・旅館」が6.4ポイント減少となっている。

夏季は「実家・知人宅」が6.0ポイント増加し、「ホテル・旅館」が3.9ポイント、「その他」が1.2ポイント減少となっている。

秋季は「その他」が2.5ポイント、「民宿・ユースホステル」が1.0ポイント増加し、「実家・知人宅」が3.3ポイント減少となっている。

9.3 年代別宿泊施設割合

(表 9-3) 年代別県内利用宿泊施設割合(%) [R5年、R6年]

		ホテル・ 旅館	実家・ 知人宅	公共の宿	民宿・ ユースホス テル	その他
10 代	R5 年 (n=18)	55.5	38.9	0.0	0.0	5.6
	R6 年 (n=41)	68.3	21.9	0.0	0.0	9.8
20 代	R5 年 (n=266)	72.5	17.7	2.3	1.9	5.6
	R6 年 (n=286)	72.0	15.7	0.7	3.2	8.4
30 代	R5 年 (n=358)	75.7	16.5	1.7	1.4	4.7
	R6 年 (n=320)	69.1	19.1	1.8	2.5	7.5
40 代	R5 年 (n=441)	75.3	11.6	2.0	2.7	8.4
	R6 年 (n=429)	68.8	16.5	2.1	2.1	10.5
50 代	R5 年 (n=553)	78.3	7.9	1.8	1.3	10.7
	R6 年 (n=584)	75.0	11.3	2.6	1.7	9.4
60 代以上	R5 年 (n=513)	78.3	7.8	3.3	1.4	9.2
	R6 年 (n=453)	72.4	6.4	4.2	4.0	13.0

年代別利用宿泊施設割合をみると、すべての年代で「ホテル・旅館」が最も多くなっている。

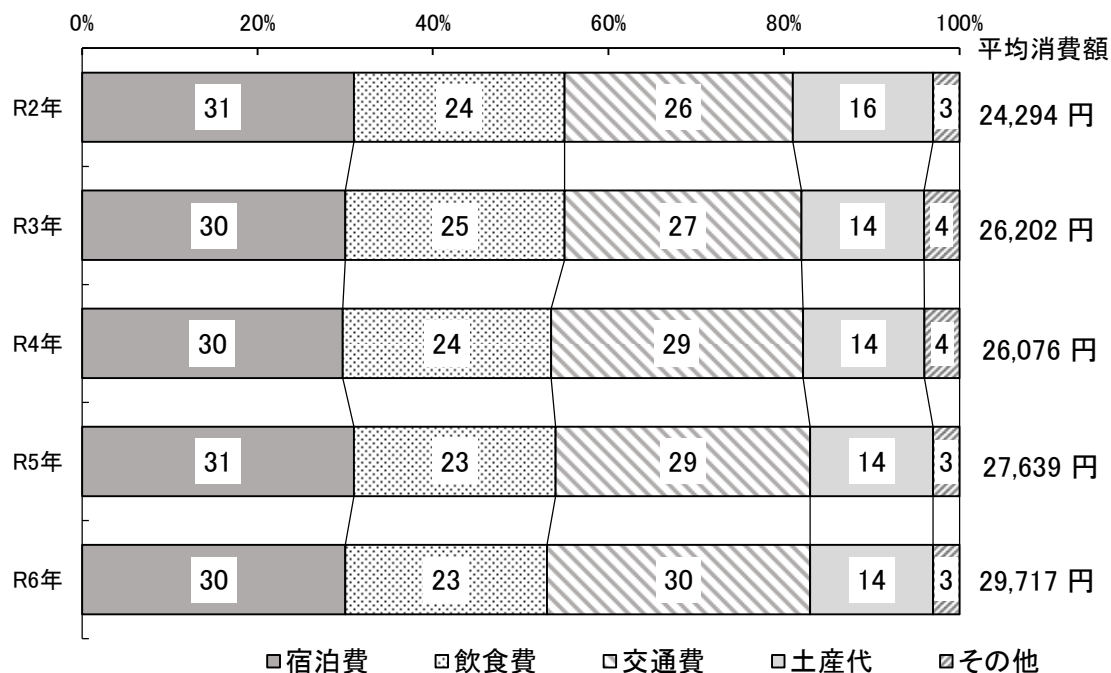
前年と比べ、5.0 ポイントを超えて増加している項目は、10 代の「ホテル・旅館」となっている。その一方で減少している項目は、30 代、40 代、60 代以上の「ホテル・旅館」、10 代の「実家・知人宅」となっている。

10 県内消費額

10.1 県内消費額費目別割合・平均消費額

10.1.1 年間

(図 10-1) 県内消費額費目別割合(%)、同平均消費額(円) [R2年～R6年]



県内消費額の年間平均金額は、前年と比べ 2,078 円増加の 29,717 円となっている。費目別でみると、「宿泊費」と「交通費」が 30%と最も多く、次いで「飲食費」が 23%、「土産代」が 14%、「その他」が 3%と続いている。

(表 10-2) 県内平均消費額費目別内訳(円) [R4年～R6年]

	宿泊費	飲食費	交通費	土産代	その他	合計
R4 年	7,780	6,176	7,478	3,731	911	26,076
R5 年	8,497	6,340	7,890	3,982	930	27,639
R6 年	8,987	6,763	8,738	4,219	1,010	29,717

費目別の平均消費額を前年と比べると、「交通費」が 848 円、「宿泊費」が 490 円、「飲食費」が 423 円、「土産代」が 237 円、「その他」が 80 円増加となっている。

令和 4 年度の調査から通してみると、すべての費目で過去最大となっている。

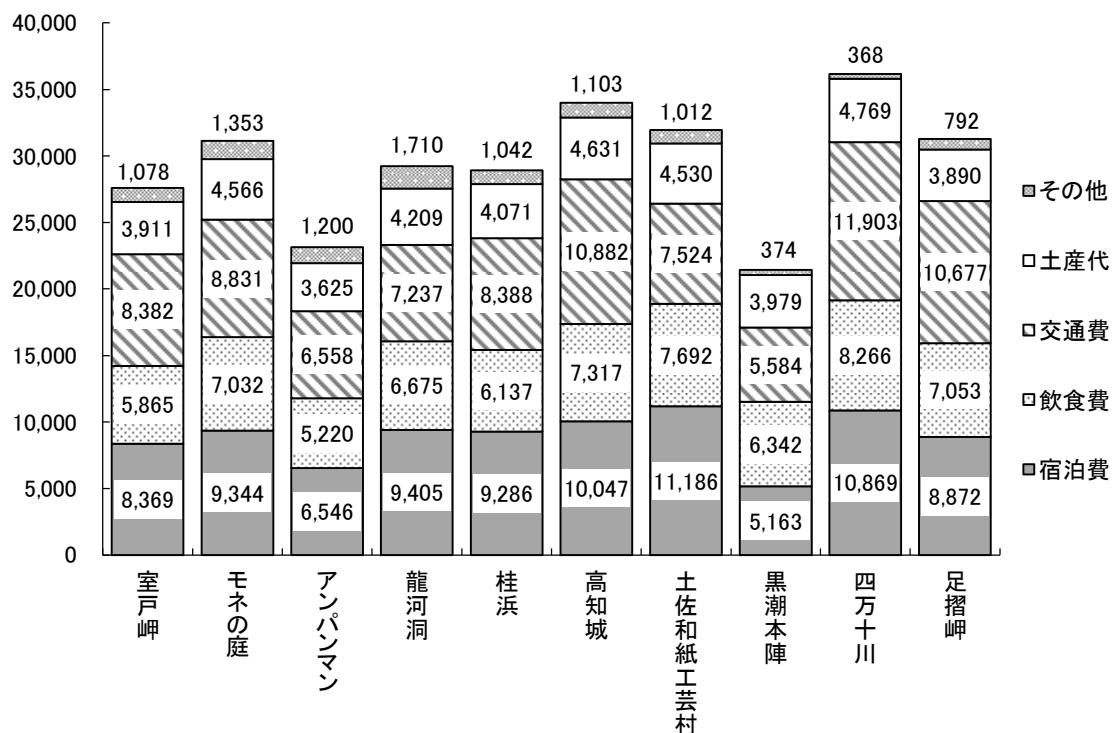
(表 10-3) 調査地別県内平均消費額(円) [R5年、R6年]

	室戸岬	モネの庭	アンパンマン	龍河洞	桂浜	高知城	土佐和紙工芸村	黒潮本陣	四万十川	足摺岬
R5 年	24,906	26,440	19,498	27,235	31,130	30,946	26,649	23,614	36,295	28,280
R6 年	27,605	31,126	23,149	29,236	28,924	33,980	31,944	21,442	36,175	31,284
前年との差	2,699	4,686	3,651	2,001	▲ 2,206	3,034	5,295	▲ 2,172	▲ 120	3,004

調査地別の年間平均消費額をみると、「四万十川」が 36,175 円で最も高く、次いで、「高知城」が 33,980 円、「土佐和紙工芸村」が 31,944 円と続いており、「黒潮本陣」が 21,442 円で最も低くなっている。

前年と比べ、「土佐和紙工芸村」が 5,295 円、「モネの庭」が 4,686 円の増加となっており、その一方で「桂浜」が 2,206 円の減少となっている。

(図 10-4) 調査地別県内平均消費額費目別内訳(円) [R6年]



調査地別に費目別の平均消費額をみると、黒潮本陣では「飲食費」が、モネの庭、龍河洞、桂浜、土佐和紙工芸村では「宿泊費」が、その他の調査地では「交通費」が最も多くなっている。

(参考) 県外観光客1人当たりの県内消費額及び経済波及効果

	R6		R5		R4		R3	
	R6-R5 (対R5増減率)		R5-R4 (対R4増減率)		R4-R3 (対R3増減率)		R3-R2 (対R2増減率)	
県外観光客総数(人)	4,453,619	▲ 268,398 ▲ 5.7%	4,722,017	1,014,703 27.4%	3,707,314	1,035,190 38.7%	2,672,124	4,301 0.2%
	客船以外	客船 (乗船客数)	客船以外	客船 (乗船客数)	客船以外	客船 (乗船客数)	客船以外	客船 (乗船客数)
	客船以外	客船 (乗船客数)	客船以外	客船 (乗船客数)	客船以外	客船 (乗船客数)	客船以外	客船 (乗船客数)
	客船以外	客船 (乗船客数)	客船以外	客船 (乗船客数)	客船以外	客船 (乗船客数)	客船以外	客船 (乗船客数)
県外観光客一人当たり消費額 (円)	4,379,019	74,600	4,645,678	940,961 25.4%	3,704,717	1,034,062 38.7%	2,670,655	3,624 0.1%
県外観光客一人当たり消費額 (円)	客船以外	客船 (乗船客数)	客船以外	客船 (乗船客数)	客船以外	客船 (乗船客数)	客船以外	客船 (乗船客数)
<内訳> 宿泊費	客船以外	客船 (乗船客数)	客船以外	客船 (乗船客数)	客船以外	客船 (乗船客数)	客船以外	客船 (乗船客数)
飲食費	客船以外	客船 (乗船客数)	客船以外	客船 (乗船客数)	客船以外	客船 (乗船客数)	客船以外	客船 (乗船客数)
交通費	客船以外	客船 (乗船客数)	客船以外	客船 (乗船客数)	客船以外	客船 (乗船客数)	客船以外	客船 (乗船客数)
土 産	客船以外	客船 (乗船客数)	客船以外	客船 (乗船客数)	客船以外	客船 (乗船客数)	客船以外	客船 (乗船客数)
その他	客船以外	客船 (乗船客数)	客船以外	客船 (乗船客数)	客船以外	客船 (乗船客数)	客船以外	客船 (乗船客数)
県外観光客の総消費額(百万 円)	客船以外	客船 (乗船客数)	客船以外	客船 (乗船客数)	客船以外	客船 (乗船客数)	客船以外	客船 (乗船客数)
	客船以外	客船 (乗船客数)	客船以外	客船 (乗船客数)	客船以外	客船 (乗船客数)	客船以外	客船 (乗船客数)
	客船以外	客船 (乗船客数)	客船以外	客船 (乗船客数)	客船以外	客船 (乗船客数)	客船以外	客船 (乗船客数)
	客船以外	客船 (乗船客数)	客船以外	客船 (乗船客数)	客船以外	客船 (乗船客数)	客船以外	客船 (乗船客数)
生産誘発効果(百万円)	195,001	144,127	192,317	144,127	144,127	104,421	104,421	104,421
生産誘発倍率(倍)	1.49	1.49	1.49	1.49	1.49	1.49	1.49	1.49

10.1.2 四季別

(表 10-5) 四季別県内消費額費目別割合(%)、同平均消費額(円) [R5年、R6年]

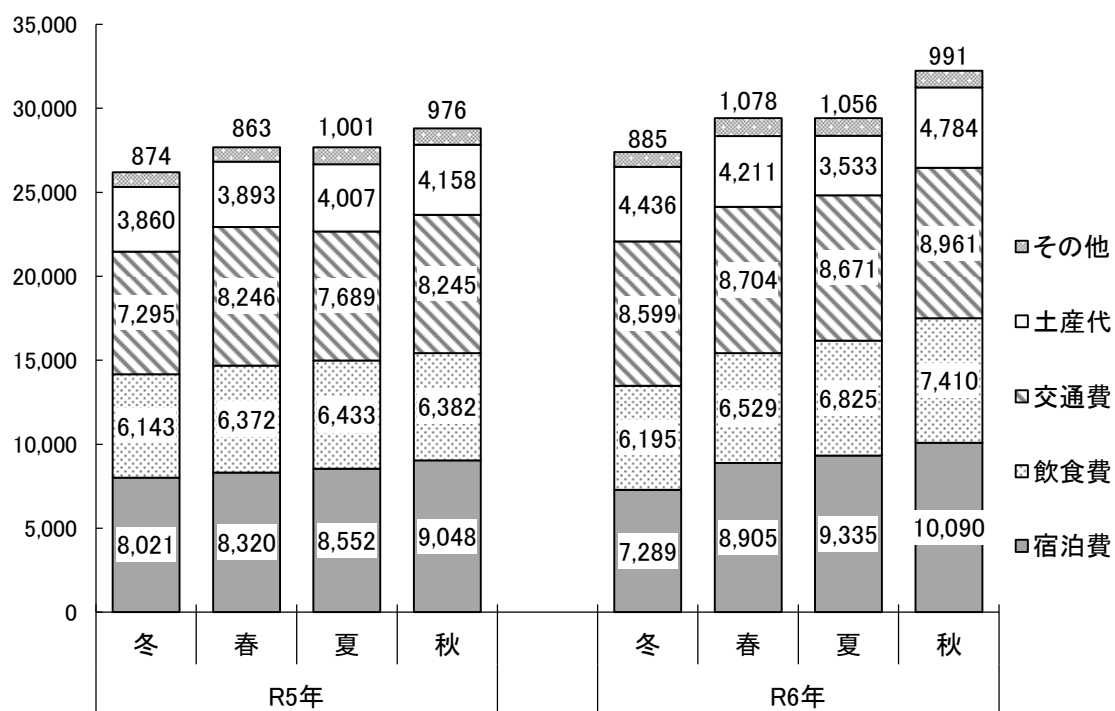
		宿泊費	飲食費	交通費	土産代	その他	平均消費額	前年差
冬	R5 年	30	24	28	14	4	26,193 円	1,211 円
	R6 年	27	23	31	16	3	27,404 円	
春	R5 年	30	23	30	14	3	27,694 円	1,733 円
	R6 年	30	22	30	14	4	29,427 円	
夏	R5 年	31	23	28	15	3	27,682 円	1,738 円
	R6 年	32	23	30	12	4	29,420 円	
秋	R5 年	31	23	28	15	3	28,809 円	3,427 円
	R6 年	31	23	28	15	3	32,236 円	

四季別の平均消費額を前年と比べると、秋季が 3,427 円、夏季が 1,738 円、春季が 1,733 円、冬季が 1,211 円の増加となっている。

費目別の割合を前年と比べると、「宿泊費」は夏季で増加、春季と秋季で横ばい、冬季で減少となっている。「飲食費」は夏季と秋季で横ばい、冬季と春季で減少となっている。

「交通費」は冬季と夏季で増加、春季と秋季で横ばいとなっている。「土産代」は冬季で増加、春季と秋季で横ばい、夏季で減少となっている。「その他」は春季と夏季で増加、秋季で横ばい、冬季で減少となっている。

(図 10-6) 四季別県内平均消費額費目別内訳(円) [R5年、R6年]



各費目について最も高くなった時季と平均消費額は、「宿泊費」が秋季の10,090円、「飲食費」が秋季の7,410円、「交通費」が秋季の8,961円、「土産代」が秋季の4,784円、「その他」が春季の1,078円となっている。

前年と比べ増加した時季と費目は、冬季の「宿泊費」を除くすべての費目、春季のすべての費目、夏季の「土産代」を除くすべての費目、秋季のすべての費目となっている。

10.2 年代別費目割合・平均消費額

(表 10-7) 年代別県内消費額費目別割合(%)、同平均消費額(円) [R5年、R6年]

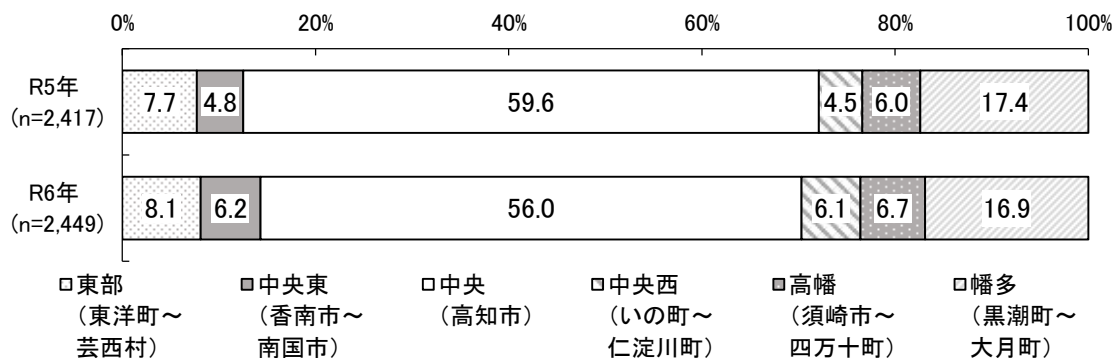
		宿泊費	飲食費	交通費	土産代	その他	平均金額	前年差
10 代	R5 年	32	22	27	15	4	23,157 円	1,206 円
	R6 年	27	22	33	13	5	24,363 円	
20 代	R5 年	29	25	31	12	3	27,595 円	5,284 円
	R6 年	27	23	35	12	3	32,879 円	
30 代	R5 年	31	22	29	14	4	26,726 円	▲ 7 円
	R6 年	27	23	32	14	4	26,719 円	
40 代	R5 年	30	24	27	15	4	27,482 円	147 円
	R6 年	30	24	28	14	4	27,629 円	
50 代	R5 年	30	23	29	15	3	27,159 円	2,978 円
	R6 年	31	23	28	15	3	30,137 円	
60 代以上	R5 年	33	21	28	15	3	29,220 円	2,910 円
	R6 年	33	22	27	15	3	32,130 円	

年代別の平均消費額は、前年と比べると、20 代が 5,284 円、50 代が 2,978 円、60 代以上が 2,910 円、10 代が 1,206 円、40 代が 147 円の増加となっており、30 代が 7 円の減少となっている。

費目別の割合を前年と比べると、「宿泊費」は 50 代で増加、40 代と 60 代以上は横ばい、その他の年代は減少となっている。「飲食費」は 30 代と 60 代以上で増加、10 代、40 代、50 代は横ばい、20 代は減少となっている。「交通費」は 10 代から 40 代で増加、その他の年代は減少となっている。「土産代」は 20 代、30 代、50 代、60 代以上で横ばい、その他の年代は減少となっている。「その他」は 10 代で増加、その他の年代は横ばいとなっている。

11 宿泊地域割合

(図 11-1) 県内宿泊地域割合(%) [R5年、R6年]



県内での宿泊地域をみると、「中央」が56.0%で最も高く、次いで「幡多」が16.9%、「東部」が8.1%、「高幡」が6.7%、「中央東」が6.2%、「中央西」が6.1%と続いている。

前年と比べ、「中央西」が1.6ポイント、「中央東」が1.4ポイント、「高幡」が0.7ポイント、「東部」が0.4ポイントの増加、「中央」が3.6ポイント、「幡多」が0.5ポイントの減少となっている。

(表 11-2) 調査地別県内宿泊地域割合(%) [R6年]

	東部	中央東	中央	中央西	高幡	幡多
室戸岬	20.6	8.5	52.4	3.6	4.8	10.1
モネの庭	28.6	5.4	52.2	4.9	2.0	6.9
アンパンマン	9.1	16.9	63.0	3.9	3.2	3.9
龍河洞	8.4	9.2	67.6	3.2	3.6	8.0
桂浜	3.8	6.1	69.0	6.1	5.8	9.2
高知城	3.2	7.4	75.1	3.9	3.6	6.8
土佐和紙工芸村	3.2	4.1	60.1	23.9	3.2	5.5
黒潮本陣	2.1	2.7	41.5	10.2	29.9	13.6
四万十川	3.1	2.1	40.2	2.4	7.7	44.5
足摺岬	4.0	3.0	37.5	4.0	10.3	41.2
全体	8.1	6.2	56.0	6.1	6.7	16.9

※背景色＋太字は調査地ごとの上位2位まで。

調査地別に宿泊地域をみると、高知城は「中央」「中央東」の順で、桂浜は「中央」「幡多」の順で、四万十川と足摺岬は「幡多」「中央」の順で、その他の調査地は「中央」と調査地がある地域の順で、それぞれ多くなっている。

(表 11-3)調査地別県内利用宿泊施設割合(%) [R6年]

	ホテル・旅館	実家・知人宅	公共の宿	民宿・ユースホステル	その他
室戸岬	71.4	8.4	1.5	8.9	9.8
モネの庭	65.7	14.6	9.0	3.4	7.3
アンパンマン	64.0	29.9	0.0	0.7	5.4
龍河洞	84.4	5.8	0.4	0.9	8.5
桂浜	77.2	9.9	0.4	1.5	11.0
高知城	80.0	12.9	0.7	1.4	5.0
土佐和紙工芸村	74.9	8.5	5.9	0.5	10.2
黒潮本陣	50.0	23.9	13.4	1.4	11.3
四万十川	63.1	21.8	1.5	1.1	12.5
足摺岬	69.4	7.4	0.4	6.1	16.7
全体	71.3	13.5	2.7	2.6	9.9

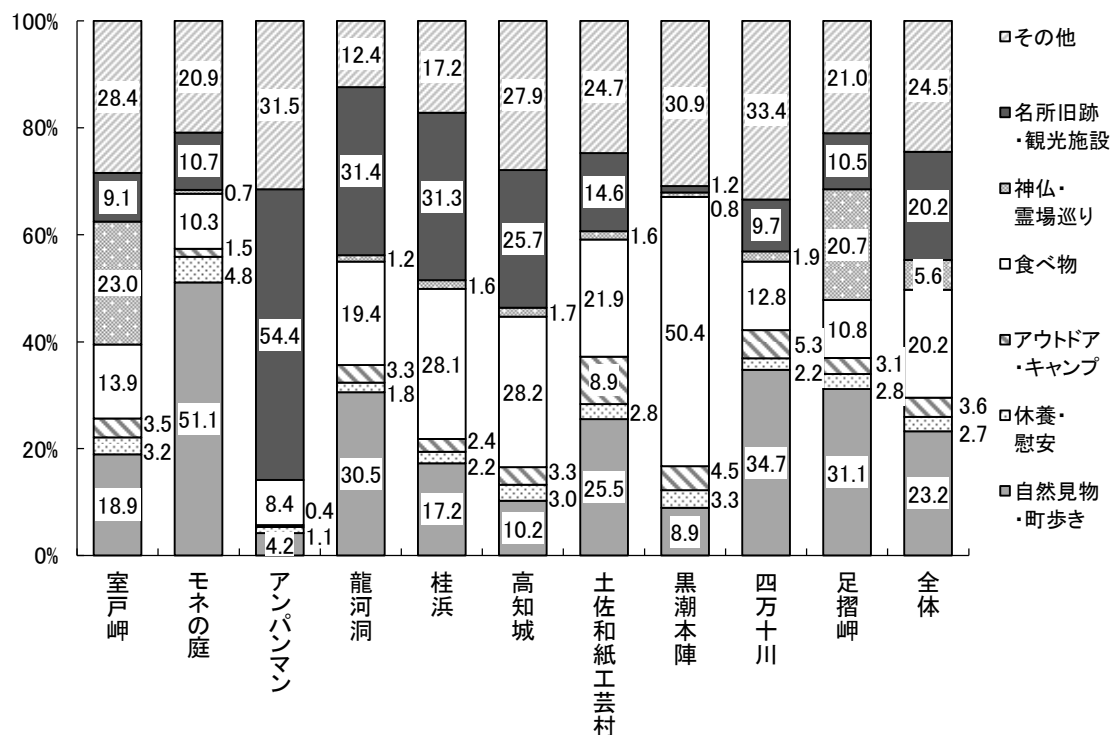
※背景色＋太字は調査地ごとの上位2位まで。

調査地別に宿泊施設をみると、室戸岬、龍河洞、桂浜、土佐和紙井工芸村、足摺岬は「ホテル・旅館」「その他」の順で、その他の調査地は「ホテル・旅館」「実家・知人宅」の順で、それぞれ多くなっている。

12 調査地別割合

12.1 旅行目的割合

(図 12-1) 調査地別旅行目的割合(%) [R6年]



(表 12-2) 調査地別旅行目的割合(%) [R6年]

	自然見物・町歩き	休養・慰安	アウトドア・キャンプ	食べ物	神仏・霊場巡り	名所旧跡・観光施設	その他
室戸岬	18.9	3.2	3.5	13.9	23.0	9.1	28.4
モネの庭	51.1	4.8	1.5	10.3	0.7	10.7	20.9
アンパンマン	4.2	1.1	0.4	8.4	0.0	54.4	31.5
龍河洞	30.5	1.8	3.3	19.4	1.2	31.4	12.4
桂浜	17.2	2.2	2.4	28.1	1.6	31.3	17.2
高知城	10.2	3.0	3.3	28.2	1.7	25.7	27.9
土佐和紙工芸村	25.5	2.8	8.9	21.9	1.6	14.6	24.7
黒潮本陣	8.9	3.3	4.5	50.4	0.8	1.2	30.9
四万十川	34.7	2.2	5.3	12.8	1.9	9.7	33.4
足摺岬	31.1	2.8	3.1	10.8	20.7	10.5	21.0
全体	23.2	2.7	3.6	20.2	5.6	20.2	24.5

※背景色＋太字は調査地ごとの上位2位まで。

調査地別の旅行目的をみると、「室戸岬」は“その他”“神仏・霊場巡り”の順で多く、その他の内訳では、“なんとなく（ドライブを含む）”が最も多くなっている。

「モネの庭」、「土佐和紙工芸村」、「四万十川」、「足摺岬」は“自然見物・町歩き”“その他”の順で多く、その他の内訳では、足摺岬で“なんとなく（ドライブを含む）”、その他の調査地で“帰省・知人訪問”が最も多くなっている。

「アンパンマンミュージアム」は“名所旧跡・観光施設”“その他”の順で多く、その他の内訳では、“帰省・知人訪問”が最も多くなっている。

「龍河洞」は“名所旧跡・観光施設”“自然見物・町歩き”の順で多くなっている。

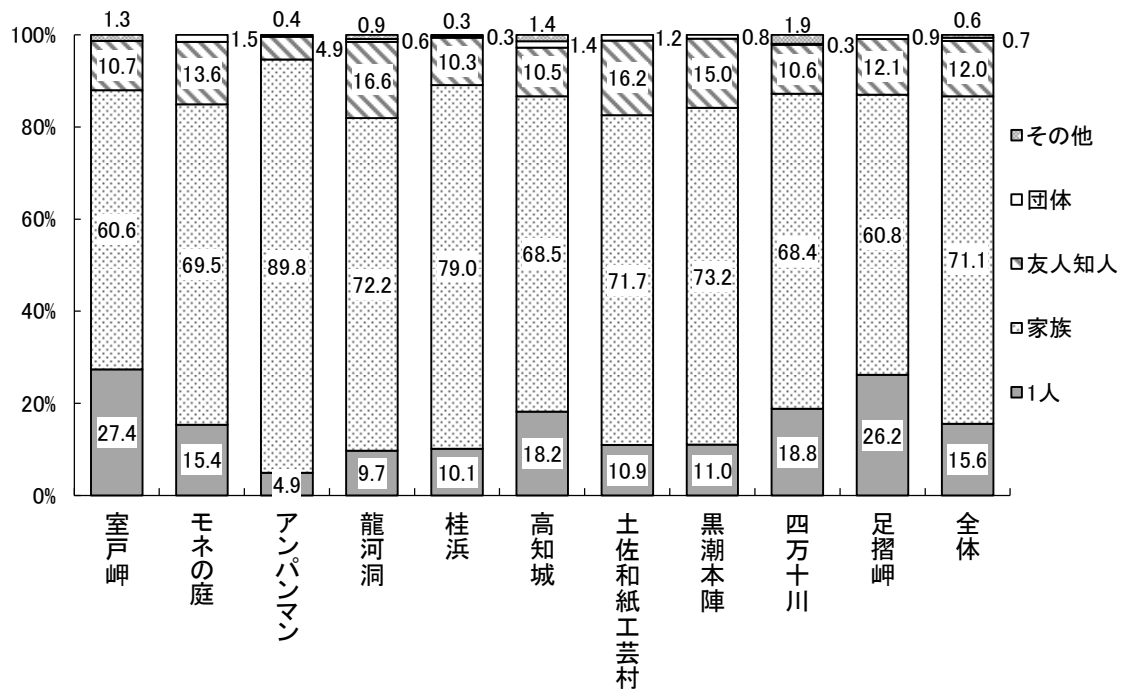
「桂浜」は“名所旧跡・観光施設”“食べ物”の順で多くなっている。

「高知城」と「黒潮本陣」は“食べ物”“その他”の順で多く、その他の内訳では、“帰省・知人訪問”が最も多くなっている。

旅行目的別に割合が最も多くなった調査地をみると、“自然見物・町歩き”は51.1%で「モネの庭」、「休養・慰安」は4.8%で「モネの庭」、「アウトドア・キャンプ」は8.9%で「土佐和紙工芸村」、「食べ物」は50.4%で「黒潮本陣」、「神仏・霊場巡り」は23.0%で「室戸岬」、「名所旧跡・観光施設」は54.4%で「アンパンマンミュージアム」となっている。

12.2 旅行形態割合

(図 12-3) 調査地別旅行形態割合(%) [R6年]

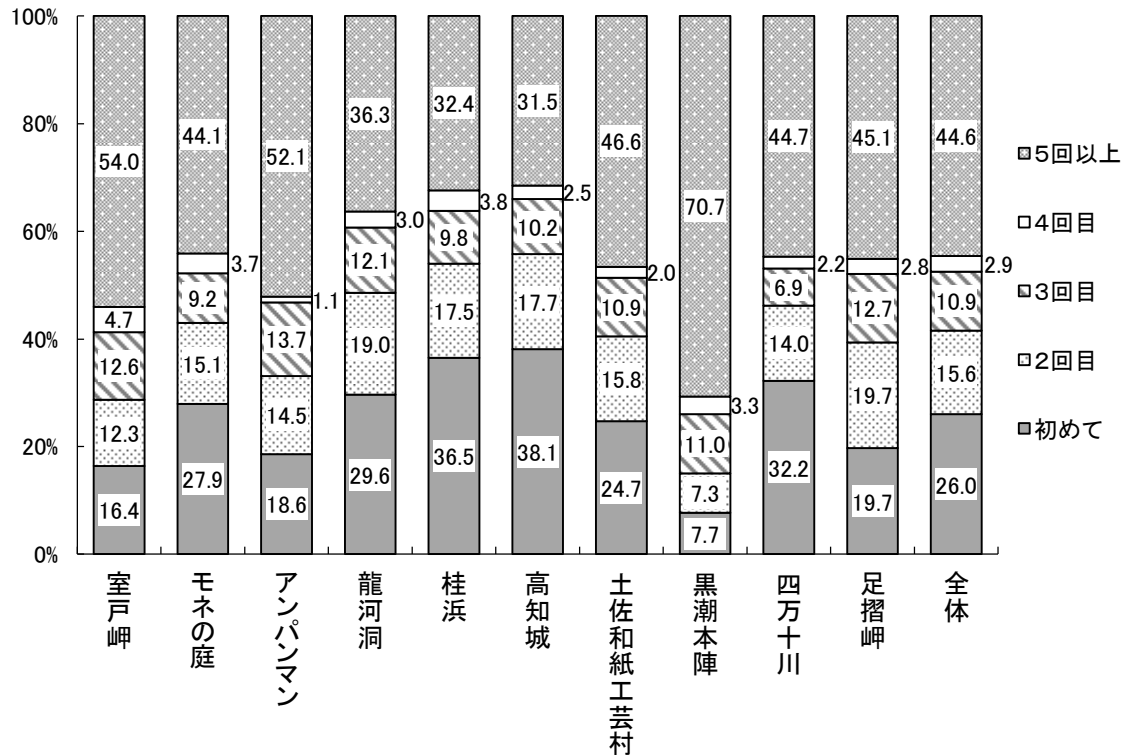


調査地別の旅行形態割合をみると、すべての調査地で「家族」が最も多く、次いで、室戸岬、モネの庭、高知城、四万十川、足摺岬は「1人」が、アンパンマンミュージアムは同率で「1人」と「友人知人」が、その他の調査地は「友人知人」が、それぞれ多くなっている。

旅行形態別に割合が最も多くなった調査地をみると、「1人」は27.4%で室戸岬、「家族」は89.8%でアンパンマンミュージアム、「友人知人」は16.6%で龍河洞、「団体」は1.5%でモネの庭、「その他」は1.9%で四万十川となっている。

12.3 過去来県回数割合

(図 12-4) 調査地別過去来県回数割合(%) [R6年]



(表 12-5) 過去来県回数割合(%) [R3年～R6年]

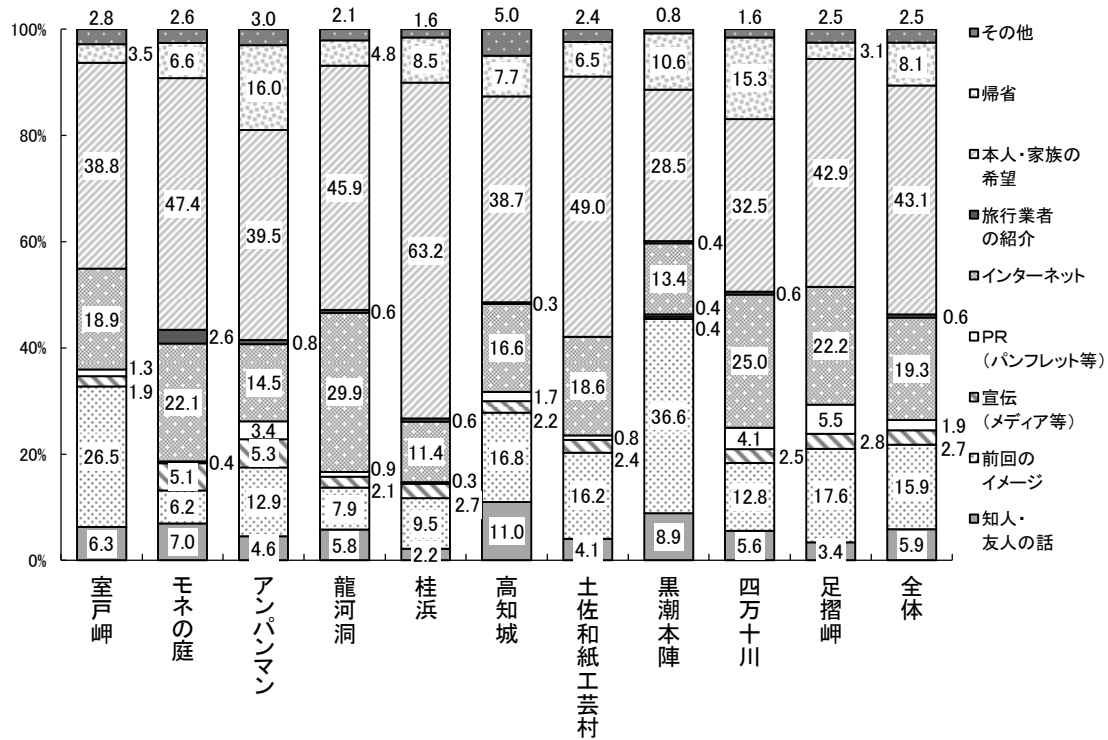
	初めて	2回目	3回目	4回目	5回以上
R3 年	25.8	13.9	11.7	3.5	45.1
R4 年	25.9	14.7	9.4	4.0	46.0
R5 年	25.1	15.7	10.0	3.7	45.5
R6 年	26.0	15.6	10.9	2.9	44.6

全体の過去来県回数は、「5回以上」が44.6%と最も多く、次いで「初めて」が26.0%、「2回目」が15.6%、「3回目」が10.9%、「4回目」が2.9%と続いている。

来県回数別に割合が最も多くなった調査地をみると、「初めて」は38.1%で高知城、「2回目」は19.7%で足摺岬、「3回目」は13.7%でアンパンマンミュージアム、「4回目」は4.7%で室戸岬、「5回以上」は70.7%で黒潮本陣となっている。

12.4 動機割合

(図 12-6) 調査地別動機割合(%) [R6年]



(表 12-7) 調査地別動機割合(%) [R6年]

	知人・友人の話	前回のイメージ	宣伝(メディア等)	PR(パンフレット等)	インターネット	旅行業者の紹介	本人・家族の希望	帰省	その他
室戸岬	6.3	26.5	1.9	1.3	18.9	0.0	38.8	3.5	2.8
モネの庭	7.0	6.2	5.1	0.4	22.1	2.6	47.4	6.6	2.6
アンパンマン	4.6	12.9	5.3	3.4	14.5	0.8	39.5	16.0	3.0
龍河洞	5.8	7.9	2.1	0.9	29.9	0.6	45.9	4.8	2.1
桂浜	2.2	9.5	2.7	0.3	11.4	0.6	63.2	8.5	1.6
高知城	11.0	16.8	2.2	1.7	16.6	0.3	38.7	7.7	5.0
土佐和紙工芸村	4.1	16.2	2.4	0.8	18.6	0.0	49.0	6.5	2.4
黒潮本陣	8.9	36.6	0.4	0.4	13.4	0.4	28.5	10.6	0.8
四万十川	5.6	12.8	2.5	4.1	25.0	0.6	32.5	15.3	1.6
足摺岬	3.4	17.6	2.8	5.5	22.2	0.0	42.9	3.1	2.5
全体	5.9	15.9	2.7	1.9	19.3	0.6	43.1	8.1	2.5

※ 背景色＋太字は動機ごとの上位2位まで。

全体の動機割合をみると、「本人・家族の希望」が43.1%と最も多く、次いで「インターネット」が19.3%、「前回のイメージ」が15.9%、「帰省」が8.1%と続いている。

動機別に割合が最も多くなった調査地をみると、「知人・友人の話」は11.0%で高知城、「前回のイメージ」は36.6%で黒潮本陣、「宣伝（メディア等）」は5.3%でアンパンマンミュージアム、「PR（パンフレット等）」は5.5%で足摺岬、「インターネット」は29.9%で龍河洞、「旅行業者の紹介」は2.6%でモネの庭、「本人・家族の希望」は63.2%で桂浜、「帰省」は16.0%でアンパンマンミュージアムとなっている。

13 ＜参考＞委託事業者の所見

令和6年度から新たな観光キャンペーン「どっぶり高知旅キャンペーン」が始まった（令和9年度までの4年間）。県外観光客の人泊数563.9万人泊、総消費額1,389億円を目標に掲げながら、「極上の田舎、高知。」をコンセプトに、磨き上げてきた県内各地の資源（食、自然、歴史・文化）を活かした滞在型観光を推し進めている。

7月には大阪・梅田「KITTE 大阪」内にアンテナショップ「SUPER LOCAL SHOP とさとさ」が開店。オープンから3か月で来店者数は年間目標を上回る約77万人、売上は約9,400万円と好調な滑り出しとなった。「スーパー・ローカル・ショップ（極上の田舎）」を前面に押し出し、高知県の食や観光などのPR、関西圏からの外商拡大に注力した一年となり、今後も関西圏での経済活動、観光客誘致の大きな柱のひとつとなるだろう。

こうした状況のなかで実施した、今年度の観光客動態調査で得られた県外旅行客の動向や課題を報告する。

1. 県内消費額の増加についての考察

令和6年の県内平均消費額は29,717円で、前年比で7.5ポイント(2,078円)の増加となった(P35:表10-2)。消費者物価指数の総合指数(全国)の令和6年平均が、前年比で2.7ポイント上昇(総務省 2025年1月24日発表)したことから見込まれる28,385円程度より、1,300円程度の上積みがあったことになる。

その主な要因として、県内旅行日数が前年から0.1日増加と滞在時間が伸びたことによる影響が全費目において表れているとみてよいだろう。それに加え、ガソリン代や高速道路利用料等を人数割りで算出する自家用車・レンタカー等を利用した場合の交通費において、1人旅が前年比で1.6ポイント増加したことも影響していると考えられる。

2. 県内消費額の75%は4つの旅行目的により占められている

旅行の主な目的別に過去3年の県内消費額の総額（表13-1）をみると、今期調査は約87,131千円（n=2,932）であった。自然見物・町歩きが総額の24.4%となる21,258千円で最も多くを占めており、次いで食べ物が20.9%の18,233千円、名所旧跡・観光施設が19.5%の16,958千円、帰省・知人訪問が11.0%の9,556千円などと続いた。

上位となった4つの旅行目的は、令和4年まで遡っても同様に上位を占めており、その割合は総額の75%以上となっている。

（表13-1）来訪目的別の県内消費額の総額(千円)〔R4年～R6年〕

R6	総額	R5	総額	R4	総額
全体(n=2,932)	87,131	全体(n=2,962)	81,867	全体(n=2,847)	74,237
自然見物・町歩き(n=672)	21,258	自然見物・町歩き(n=657)	20,074	自然見物・町歩き(n=687)	19,599
食べ物(n=598)	18,233	名所旧跡・観光施設(n=706)	18,367	名所旧跡・観光施設(n=665)	16,182
名所旧跡・観光施設(n=584)	16,958	食べ物(n=602)	17,550	食べ物(n=538)	14,643
帰省・知人訪問(n=330)	9,556	帰省・知人訪問(n=319)	8,935	帰省・知人訪問(n=285)	8,411
神仏・霊場巡り(n=168)	5,641	神仏・霊場巡り(n=116)	3,343	なんとなく(n=225)	3,915
なんとなく(n=201)	3,953	なんとなく(n=197)	3,329	アウトドア・キャンプ(n=124)	3,432
アウトドア・キャンプ(n=106)	3,780	休養・慰安(n=106)	2,719	神仏・霊場巡り(n=101)	2,320
祭り・イベント(n=46)	1,867	アウトドア・キャンプ(n=84)	2,708	休養・慰安(n=71)	1,885
休養・慰安(n=79)	1,733	祭り・イベント(n=63)	2,445	ビジネス(n=18)	826
ビジネス(n=28)	1,537	ビジネス(n=16)	658	買い物(n=59)	820
買い物(n=76)	1,026	その他(n=22)	616	祭り・イベント(n=24)	613
その他(n=26)	983	買い物(n=54)	599	スポーツ(n=20)	606
スポーツ(n=7)	329	スポーツ(n=9)	264	その他(n=18)	508
観光・その他(n=11)	277	観光・その他(n=11)	260	観光・その他(n=10)	353
ワーケーション(n=0)	0	ワーケーション(n=0)	0	ワーケーション(n=2)	124

3年続けて最も総額が高くなった自然見物・町歩きは、景観の良さで知られる自然スポットを見物することが主な旅行者であり、その目的地として挙げられる代表的な県内スポットとして、仁淀川（にこ淵、安居溪谷、中津溪谷）、四万十川（沈下橋めぐり）、足摺岬、四国カルスト、柏島などがある。

これらを目的地とする旅行者からは、現地および周辺地域での飲食店や土産物店、自然を活かした体験プログラムの情報提供に関するニーズが多く、またアクセスルートの案内や改良などを望む声も多く寄せられている。

さて、自然がキーワードとなる旅行の中には、近年の国内旅行のトレンドの一つとして挙げられるデジタルデトックスがある。スマートフォンやデジタルデバイスから離れ、自然の中でリラックスする旅行である。特に 20 代から 40 代の仕事や日常生活において、デジタルデバイスを多用する世代に人気といわれている。

このようなトレンドへ対応し、自然の中でアクティビティを楽しむ体験プログラムに加え、静的要素の強いヨガ・瞑想等を自然の中で行う体験プログラム、温泉とエステ・アロママッサージ等のリラクゼーション、地域の伝統工芸や文化を体験できるワークショップ等の提供を本県の魅力的な自然と組み合わせることを目指したいところである。

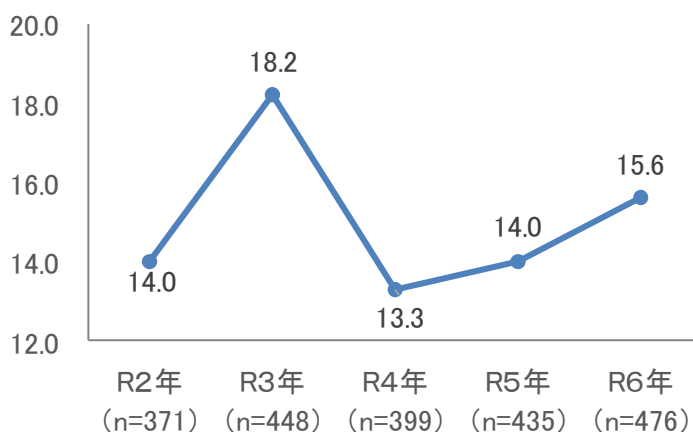
宿泊を伴うケースでは、ホテル等においてもスマートフォンを利用しない宿泊客には、割引やドリンクサービス等の特典を設けている事業者の工夫なども参考になるのではないだろうか。

3. 「一人旅」の動向に関する考察

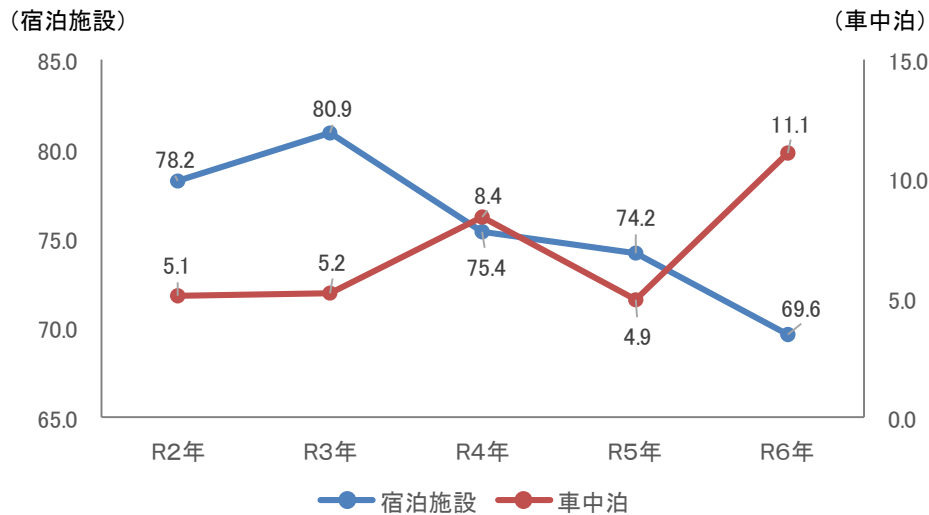
今期調査で得られた結果の特徴のひとつとして、県外旅行客の「一人旅」が前年比 1.6 ポイント増加の 15.6%となっていたことが挙げられる（P29：表 8-1）。また、年代別では、10 代から 30 代の若年層、40 代、60 代以上のシニア層が前年から増加しており、これは「じゃらん観光国内宿泊旅行調査 2024」（リクルートじゃらんリサーチセンター調べ）に記述されている傾向と同様の結果となった。

直近 5 年の一人旅で訪れた県外旅行客の割合（図 13-2）をみると、令和 2 年は 14.0%、令和 3 年は新型コロナウイルスによる行動制限、大人数での旅行自粛が影響となり 18.2%と大きく増加、アフターコロナとなる令和 4 年は 13.3%まで減少し、その後の 2 年間は増加傾向が続いている。本項では、近年ニーズが高まりつつある一人旅の動向について考察した結果を報告する。

（図 13-2）一人旅の割合（%）[R2年～ R6年]



(図 13-3) 一人旅の宿泊施設、車中泊の割合(%) [R2年～ R6年]

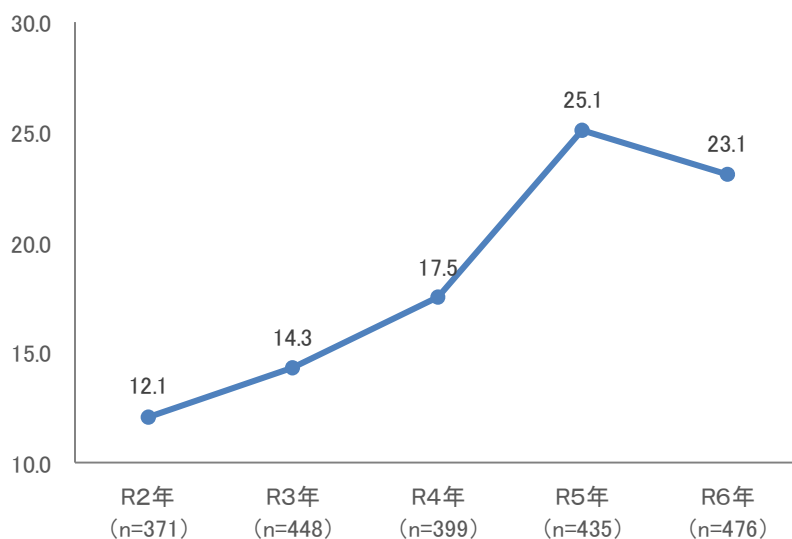


まず、直近5年の一人旅が利用した「宿泊施設」(宿泊料金が発生するホテル、旅館、民宿、ユースホステル、公共の宿の合算)と「車中泊」の割合(図13-3)をみると、5年を通して「宿泊施設」が半数以上を占めているものの、令和3年を境に減少傾向が続き、今期は69.6%と過去最小となっている。その一方で、「車中泊」が11.1%と過去最大となった。

「宿泊施設」が減少傾向にある要因のひとつとして、近年の物価高騰や観光需要の回復、人手不足などを背景にした宿泊料金の値上げによる影響と推察できる。

「車中泊」は、コロナ禍に密を避けながら旅行を楽しむ手段としてブームのひとつとなりつつあるが、近年では、「車泊」や「バンライフ」といった新たなスタイルがインターネット・SNS等で散見されるように、従来のような消極的な宿泊手段ではなく、旅行をしながら車中泊そのものを楽しむ、内装を工夫して快適に過ごすという旅のスタイルだ。このような変化に対応し、RVパークが併設されたオートキャンプ場や道の駅、日帰り入浴等の情報発信をはじめ、施設のシャワーやトイレ、電源などといった利便性も高めていくことで、旅先に本県を選択される可能性が高まるだろう。また、ペット連れで移動する旅行者も散見されることから、ペット同伴が可能な食事処や観光施設、ドッグランなどの受け入れ体制の整備も効果的だ。

(図 13-4) 一人旅の女性割合(%) [R2年～ R6年]



続いて、直近5年の一人旅の女性割合（図 13-4）をみると、増加傾向にあり、令和2年の12.1%から今期は23.1%とほぼ倍増していることが分かる。今後も一人旅市場における女性の割合が今後も高まる可能性をふまえ、安全面や快適性を重視した旅の選択肢を提供していくことが求められるだろう。

最後となるが、来年度からはアンパンマンの作者・やなせたかしと小松暢の夫婦を題材にした連続テレビ小説「あんばん」（NHK）の放映がスタートする。放映に併せて、物部川エリア（南国市・香美市・香南市）では3月から「ものべがわエリア観光博ものべすと」が開催（令和7年3月29日～令和8年2月8日）し、核となる香美市立やなせたかし記念館のリニューアルオープンをはじめ、関連スポットの整備や観光素材・ガイド等の磨き上げにも注力されている。

物部川エリアが全国から脚光を浴びる年となる令和7年度は、アンパンマン列車25周年、絵金蔵22周年を迎える。さらに令和8年度はアンパンマンミュージアム30周年、のいち動物公園35周年、絵金祭り第50回と大きな節目を迎える施設や祭り等が多くある。これを絶好のチャンスとし、朝ドラ放映後も物部川エリアの観光振興が盛り上がりを見せてくれることに期待し締めくくりたい。

高知県観光客アンケート調査票

- Q 1. あなたのお住まいはどこですか。国内にお住まいであれば都道府県名、海外であれば国名をご記入下さい。
また、高知県内にお住まいの場合は市町村名をご記入下さい。

(都道府県名：) 海外の場合 (国名：)

高知県内の場合
→ (市町村名)

- Q 2. あなたの性別、年齢を選んで下さい。※それぞれ1つだけ

性別 : 1. 男性 2. 女性
年齢 : 1. 10歳未満 2. 10歳代 3. 20歳代 4. 30歳代 5. 40歳代
6. 50歳代 7. 60歳代 8. 70歳代 9. 80歳以上

- Q 3. 今回の旅行は日帰りですか、宿泊ですか。※1つだけ

宿泊であれば、何泊か、そのうち県内では何泊するか、いくつの施設に宿泊するかをご記入下さい。
また、県内ではどの地域の、どのような施設に何泊するかをご記入下さい。※いくつでも

1. 日帰り 2. 宿泊

宿泊した施設の数
↓
→ 宿泊数 泊 → そのうち県内 泊 ⇒ 県内宿泊施設数 施設

＜県内宿泊施設＞

- | | |
|-----------------------------------|-------------------|
| 1. 実家や知人・親戚宅 () 泊 | 2. 旅館 () 泊 |
| 3. ホテル () 泊 | 4. ペンション・民宿 () 泊 |
| 5. 保養所・研修所 () 泊 | 6. キャンプ場 () 泊 |
| 7. (キャンプ場以外の) 車中泊・交通機関内での宿泊 () 泊 | |
| 8. 別荘・リゾートマンション () 泊 | 9. 会員制の宿泊施設 () 泊 |
| 10. ユースホステル・ライダーズイン () 泊 | 11. 公共の宿 () 泊 |
| 12. その他 () 泊 | |

＜県内宿泊場所＞

- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| 1. 東部地域 (東洋町～芸西村) () 泊 | 2. 中央東地域 (香南市～南国市) () 泊 |
| 3. 中央地域 (高知市) () 泊 | 4. 中央西地域 (いの町～仁淀川町) () 泊 |
| 5. 高幡地域 (須崎市～四万十町) () 泊 | 6. 幡多地域 (黒潮町～大月町) () 泊 |

- Q 4. 今回のご旅行の主要な目的は何ですか。※1つだけ

1. ビジネス
2. 観光

「2. 観光」を選んだ場合、今回のご旅行の主な目的を1つ教えて下さい。

01 自然見物・町歩き	02 休養・慰安	03 祭り・イベント
04 登山・アウトドア・キャンプ	05 スポーツ (プロ野球キャンプ・観戦など)	
06 食べ物 (味覚・酒)	07 神仏・霊場巡り	08 買い物
09 名所旧跡・観光施設などの見学・行楽	10 なんとなく (ドライブ等含む)	
11 ワークেশョン	12 その他 ()	

3. 帰省・知人訪問
4. (1～3のどれでもない) その他

- Q 5. 今回のご旅行のきっかけを教えてください。

1. 知人・友人の話	2. 前回のイメージ	3. 宣伝 (TV・ラジオ・雑誌等)
4. PR (パンフレット・キャンペーン等)	5. インターネット (携帯電話含む)	
6. 旅行業者の紹介・ツアー参加	7. 来たかった・家族の希望	
8. 帰省	9. その他	

1. 自分で旅行プランを立てて、宿泊・交通機関なども自分で手配した
2. 旅行プランを決めて、宿泊や高知への往復には旅行代理店のフリープランを使っている
3. 旅行代理店でコースが決められている添乗員付きの旅行プランを使っている

() 人
2人以上の場合
→ 1. 家族 2. 友人 3. 職場・学校等の団体旅行 4. その他

1. 知らない 2. 知っている → 1 回目の人数 () 人、2 回目の人数 () 人
3 回目の人数 () 人、4 回目以上の人数 () 人

あなたは、高知県の訪問が何回目ですか。

1. はじめて	2. 2回目	3. 3回目以上 (回目)
---------	--------	-------------------------

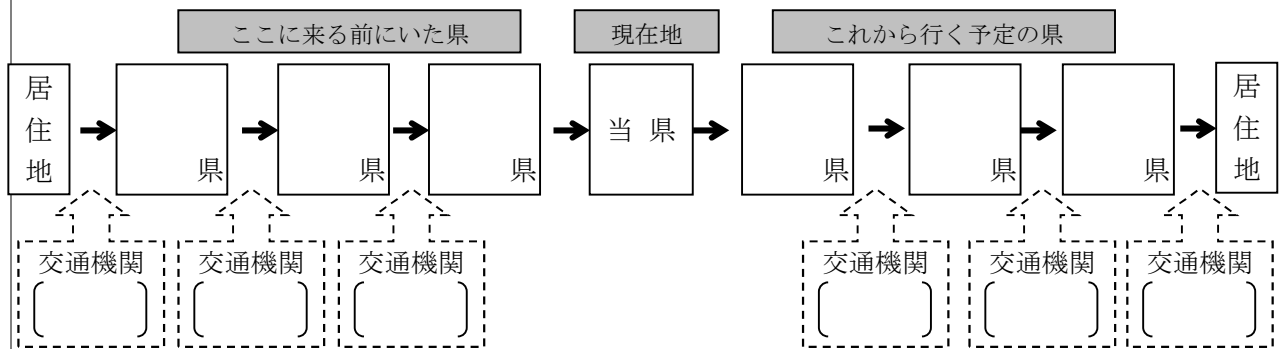
ご一緒のみなさん全員の、高知県の訪問が何回目かご存じですか。※回答の合計はQ 7と一致

1. 知らない	2. <u>知っている</u> → 1 回目の人数 () 人、2 回目の人数 () 人 3 回目の人数 () 人、4 回目以上の人数 () 人
---------	--

また、この県に訪れる前・後に立ち寄った（立ち寄る予定の）都道府県があれば記入下さい。

【表】 交通機関

当県以外に立ち寄り都道府県がある場合はご記入下さい



【表】交通機関

- ① J R 新幹線 ② J R 在来線 ③ 私鉄・地下鉄 ④ モノレール ⑤ - 1 貸切バス
 ⑤ - 2 観光バス (MY 遊バス等含む) ⑥ 高速バス ⑦ 市内バス・路線バス
 ⑧ 路面電車 ⑨ タクシー・ハイヤー ⑩ レンタカー ⑪ 自家用車、社用・公用車
 ⑫ 飛行機 ⑬ フェリー ⑭ バイク ⑮ その他

Q12. 今回の旅行で、使う費用（これから使う予定も含めて）を教えてください。

1人当たりの費用を、下欄の項目別にご記入下さい。

※ 交通費は高速料金やガソリン代や駐車場代を含め、県外・県内分を分けて記入

※ 今回の旅行がパック旅行である場合、費用が県内のみか、県外分を含むかを選択

※ ☐ ← 表内の回答がグループ合計の場合にはチェック

	使用費用		使用費用	
①交通費	(県内分)	円	(県外分)	円
②宿泊費	(県内分)	円		
③土産代	(県内分)	円		
④飲食費	(県内分)	円		
⑤入場料	(県内分)	円		
⑥その他	(県内分)	円		
⑦パック料金				円
			↑ ☐ 県内分のみ もしくは ☐ 県外分含む	

Q13. ご意見・ご感想（他県と比べて良い点、悪い点等もお聞かせ下さい）

※ 冬期は特に、この季節に高知へ来られた理由、高知の魅力など（冬季対策の参考意見として）をお聞かせ下さい

※調査票コード

1. 観_共通_日

都道府県	調査地点ID	調査年月日	調査時刻	ID
			:	

・高知県では、観光客の満足度向上のため、「おもてなしトイレ」や「おもてなしタクシー」の取組を進めています。
--

Q1 「おもてなしタクシー」をご存じですか。

1 知っている 2 知らなかった

Q2 「おもてなしタクシー」を利用したことがある方にお聞きします。

「おもてなしタクシー」の接客マナーについて

1 大変良い 2 良い 3 ふつう 4 悪い 5 大変悪い

【理由】

Q3 「おもてなしトイレ」をご存知ですか。

1 知っている 2 知らなかった

Q4 「おもてなしトイレ」を利用したことがある方にお聞きします。

「おもてなしトイレ」の快適性について

1 大変良い 2 良い 3 ふつう 4 悪い 5 大変悪い

【理由】

・「どっぷり高知旅キャンペーン」について

Q5 「どっぷり高知旅キャンペーン」を聞いたことがありますか。

1 聞いたことがある 2 旅行中に聞いた 3 聞いたことがない

Q6 「どっぷり高知旅キャンペーン」を聞いたことがあるとお答えした方にお聞きします。

「どっぷり高知旅キャンペーン」とはどのようなキャンペーンかご存じですか。

1 知っている 2 知らない 3 その他 []

Q7 高知の魅力は、何だと思いますか。

1 食 2 自然 3 歴史・文化 4 人との触れ合い 5 その他〔 〕

Q8 また高知を訪れたいと思いますか。

1 ぜひ訪れたい 2 そうは思わない

・高知駅前観光案内所「とさてらす」について

Q9 高知駅前観光案内所「とさてらす」を利用したことはありますか。

1 利用した 2 知っていたが利用しなかった 3 知らなかった（初めて聞いた）ので利用していない

Q10 「とさてらす」を利用したことがある方にお聞きします。「とさてらす」での観光案内・おもてなしについて

1 大褒良い 2 良い 3 普通 4 悪い 5 大褒悪い

Q11 「とさてらす」にどのような機能があれば、さらに便利になると思いますか。

【自由記載】

・高知県では、本県の強みである豊かな自然環境を活かし、誰もが楽しむことができるサイクリングコースの環境整備等を進めています。

Q12 移動中の風景を楽しむことや、体を動かすことを目的に、旅行中、高知県内で自転車を利用しましたか？

※ご自身の自転車（電動自転車含む）等、利用形態や乗車時間は問いません

1 利用した 2 利用していない

【理由】

☆☆ 調査内容は以上です。ご協力、ありがとうございました。☆☆